



機巧圖彙

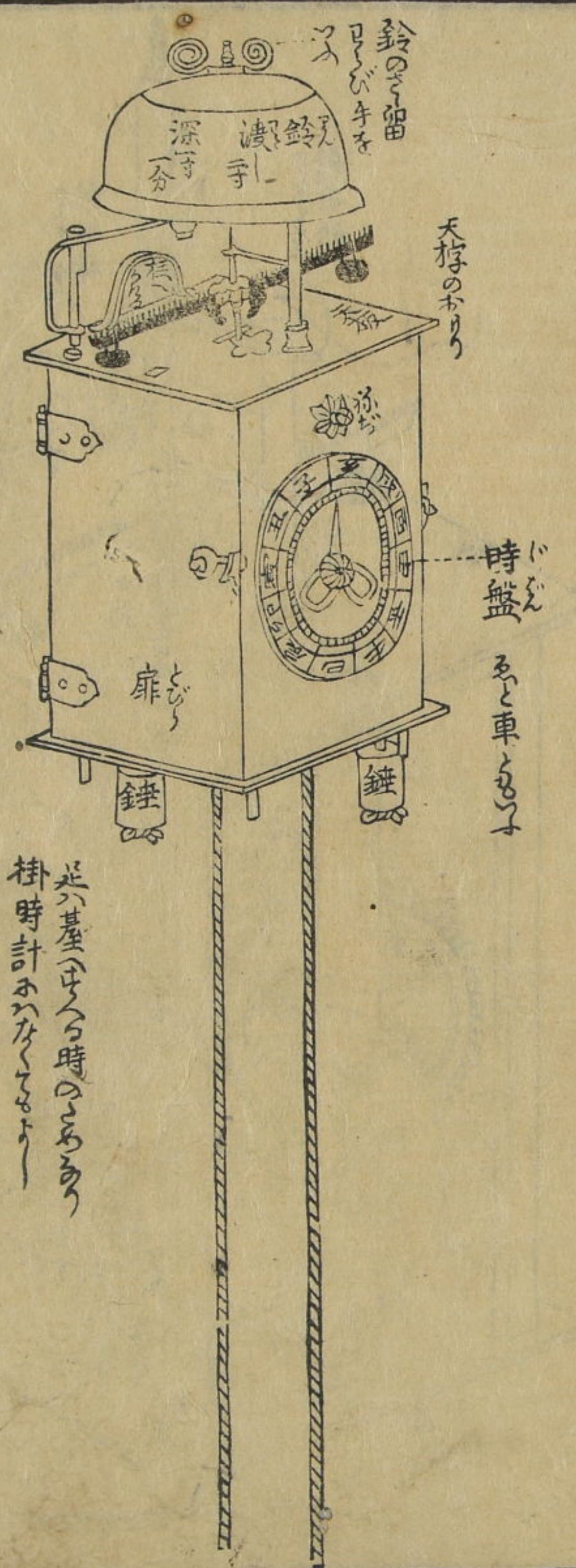
首卷





柱時計 掛時計 廿二

柱へかけ前後の鐘を引上げ差入天然子時しあれば鐘を打つ右四つ時小八四つ九つ時小八
九つ其間の半小八ハツ宛らあり前子あるらんおて凡時刻を知らん

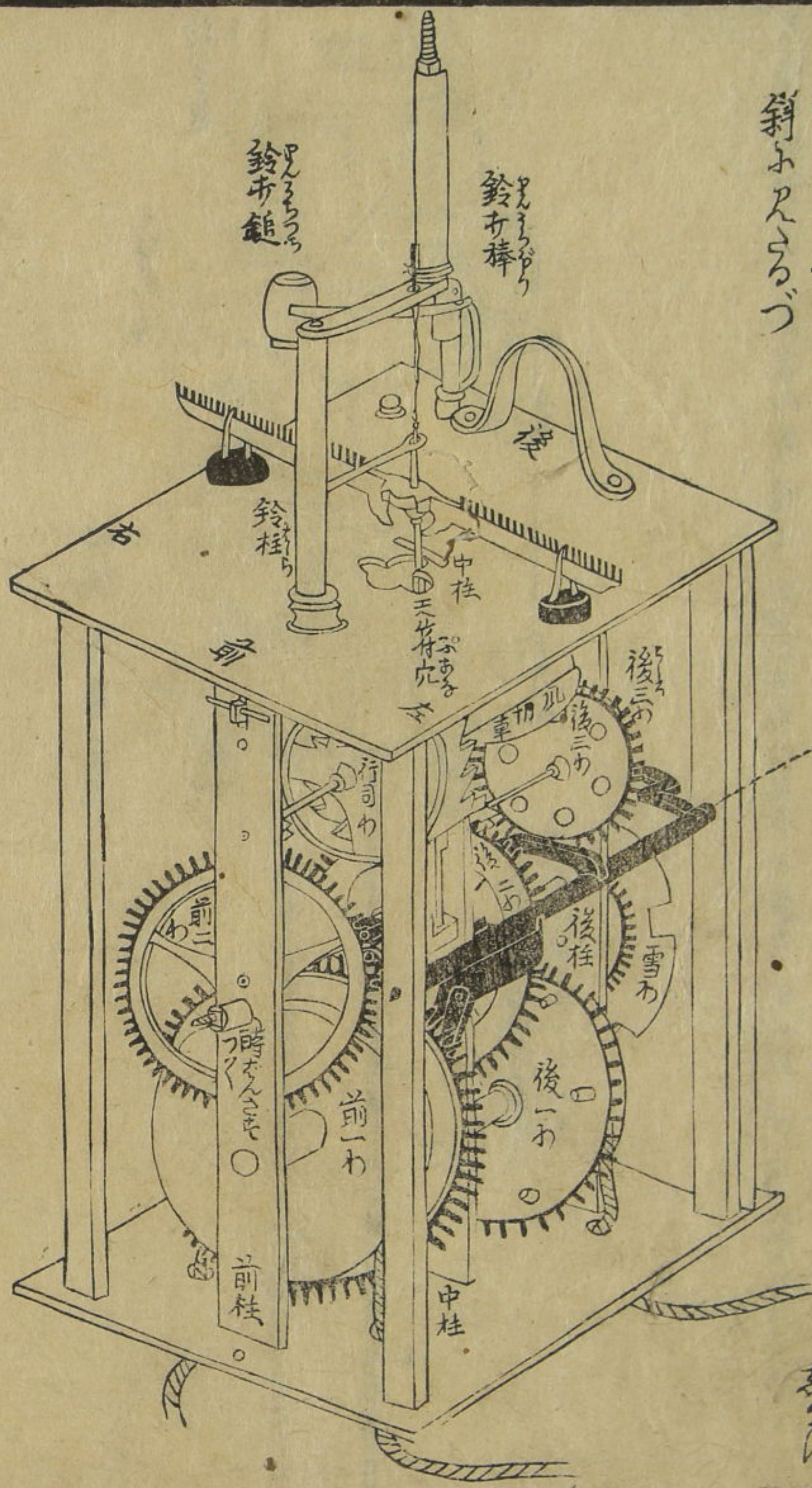


是の基は五つ時のおき
掛時計のなかり

天棒の鐘にて日と昼夜の長短を知らるり日長き時ハ外へおして夕日短き時ハ
内へおして夕日短き時ハ外へおして夕日長き時ハ内へおして夕日長き時ハ

内がくろく機圖

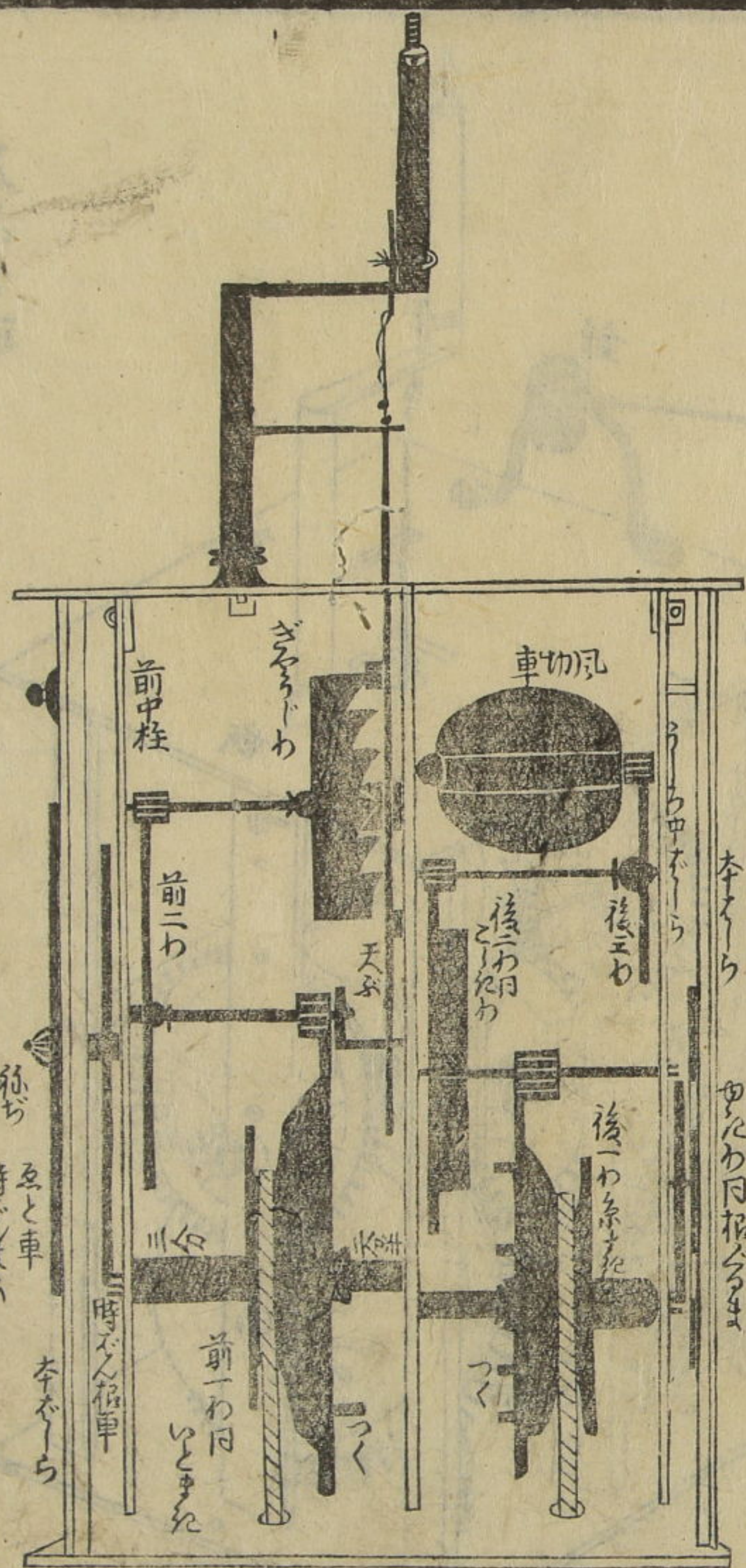
第の左の方より
斜ふ尺さるづ



三の枝金三枝ともふそとく名あり後三解ふ
まらり

内がくろく機圖

左の方より
正面ふ尺さる

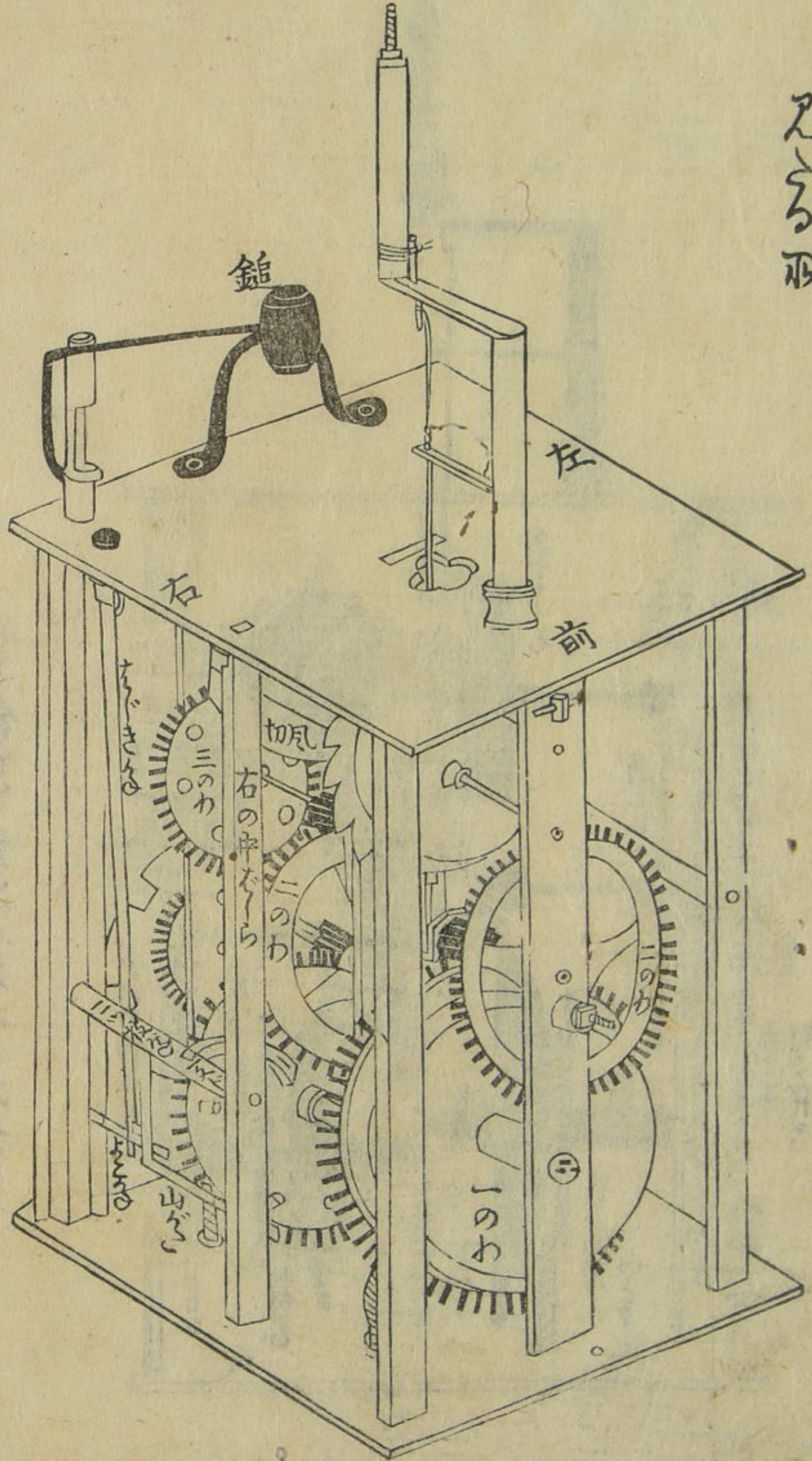


一のわの心棒乃て乃能と根車と
くし合せて雪わをめぐらる

一乃わの心棒乃て乃能と根車と
くし合せて雪わをめぐらる

内かくくも機圖

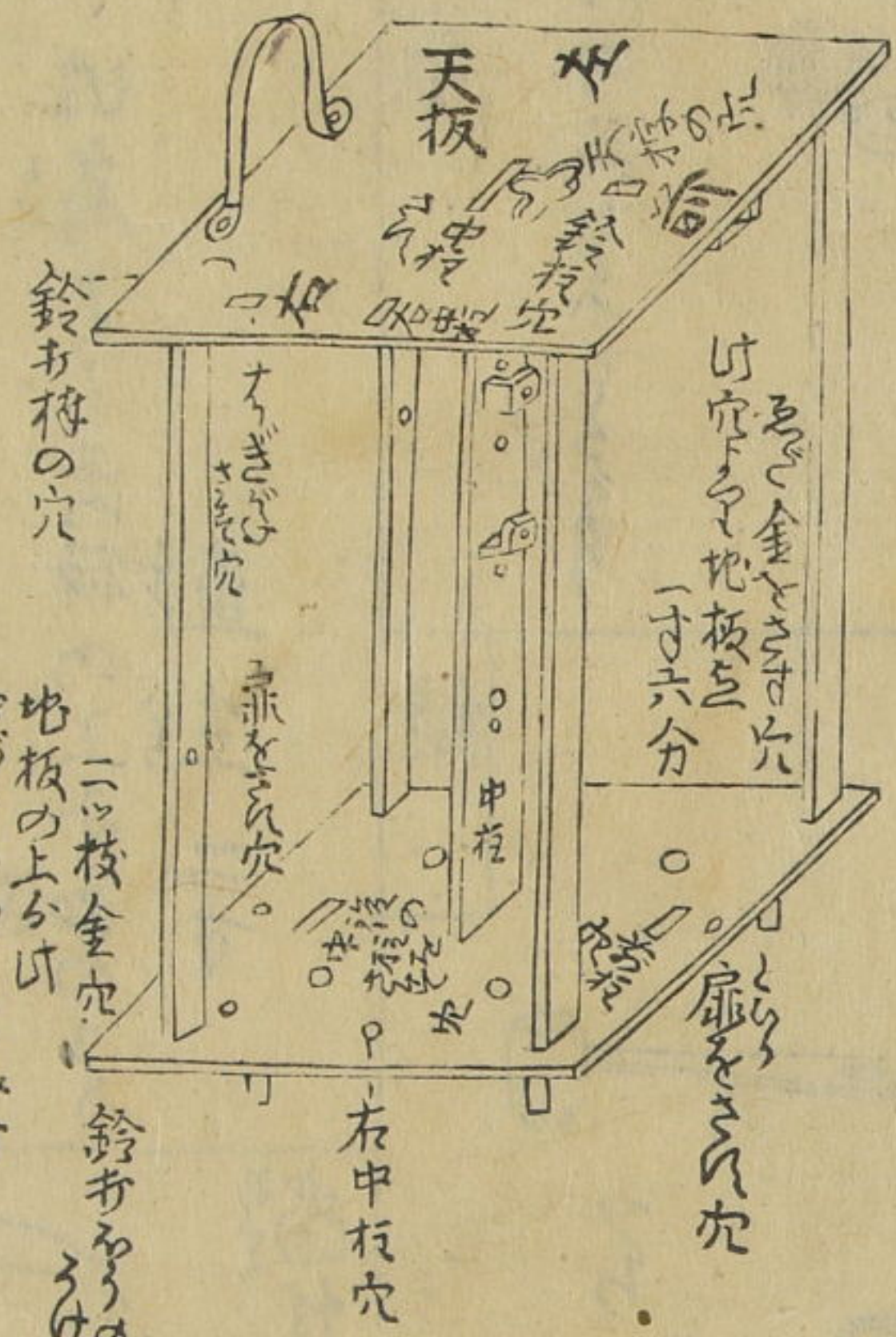
前の右の方より
見らる形



後の一の端のほくをゆりて上りて一文字をとりあくる中へ下りて出金
めて機金を機ふをゆるるな九ふけらをとこおひてふを打後小詳なり

胴躰の圖

是より分圖なり



此四本の柱を柱とす

右の柱を
一寸六分
扉をさへ穴

右中板穴

鉗お梅の穴

二枚金丸
地板の上分け
心ざらふにて一寸一分

鉗柱の心や天板の真中を五分

天地の板二寸二分厚

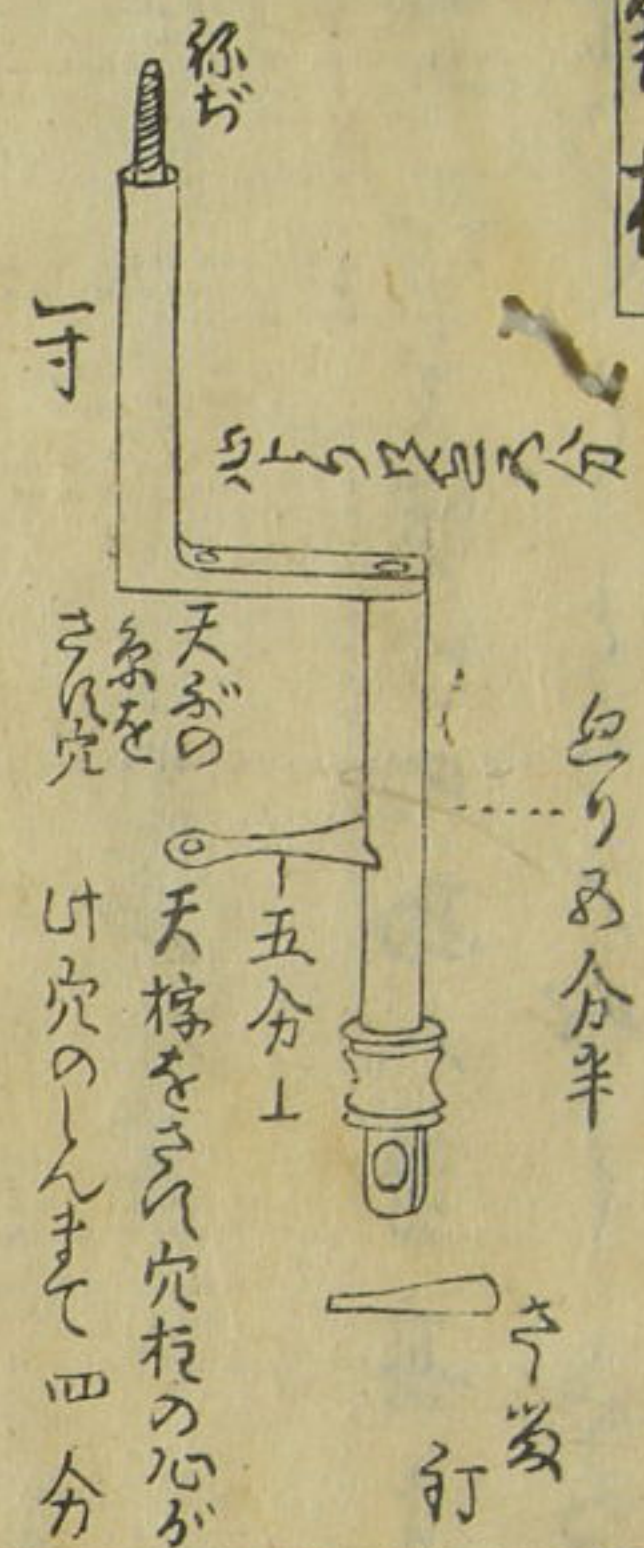
厚七アム

柱大きき前後より
付けらる亦二分左右
足付一分を天地乃
板片二寸
中板前後の柱を
各内の

七分七アム

是作中付けの扱へ皆其さくふて取らざらざるめを
とくどとりとらざる図

鈴板

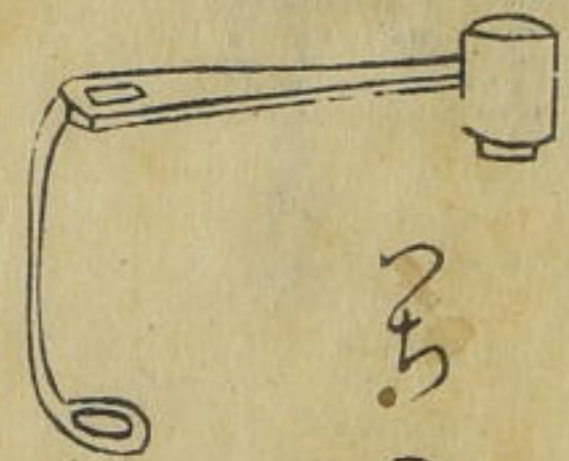


け肩より天板の上小ぶらり
直立二寸

藏手

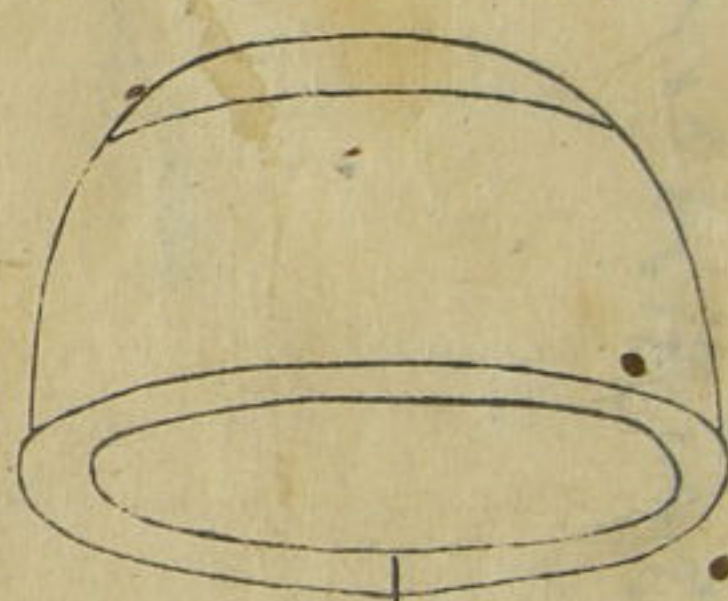
穴の内孫ちふらり

鏡



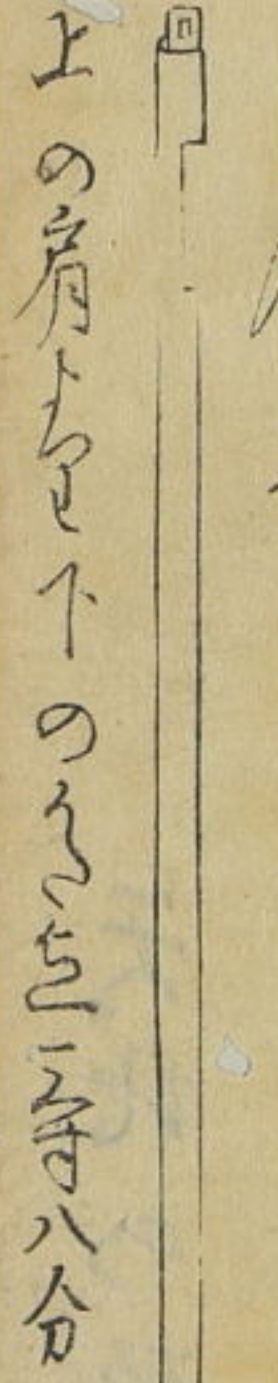
け肩より天板の上小ぶらり
直立二寸

見



鏡の裏の下
骨のどく刻の
平を付きえん
元を引し
表の裏のあり
斗もけし
斗もけし

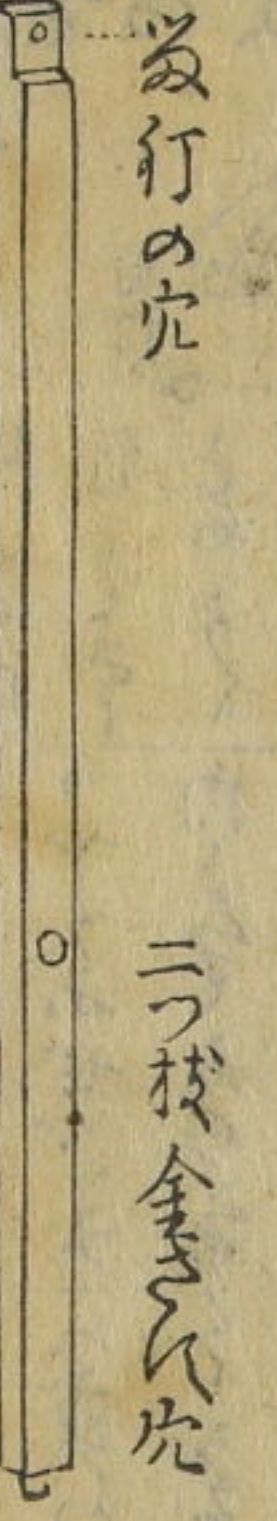
鈴打棒



上の肩より上のうら二寸八分

九分

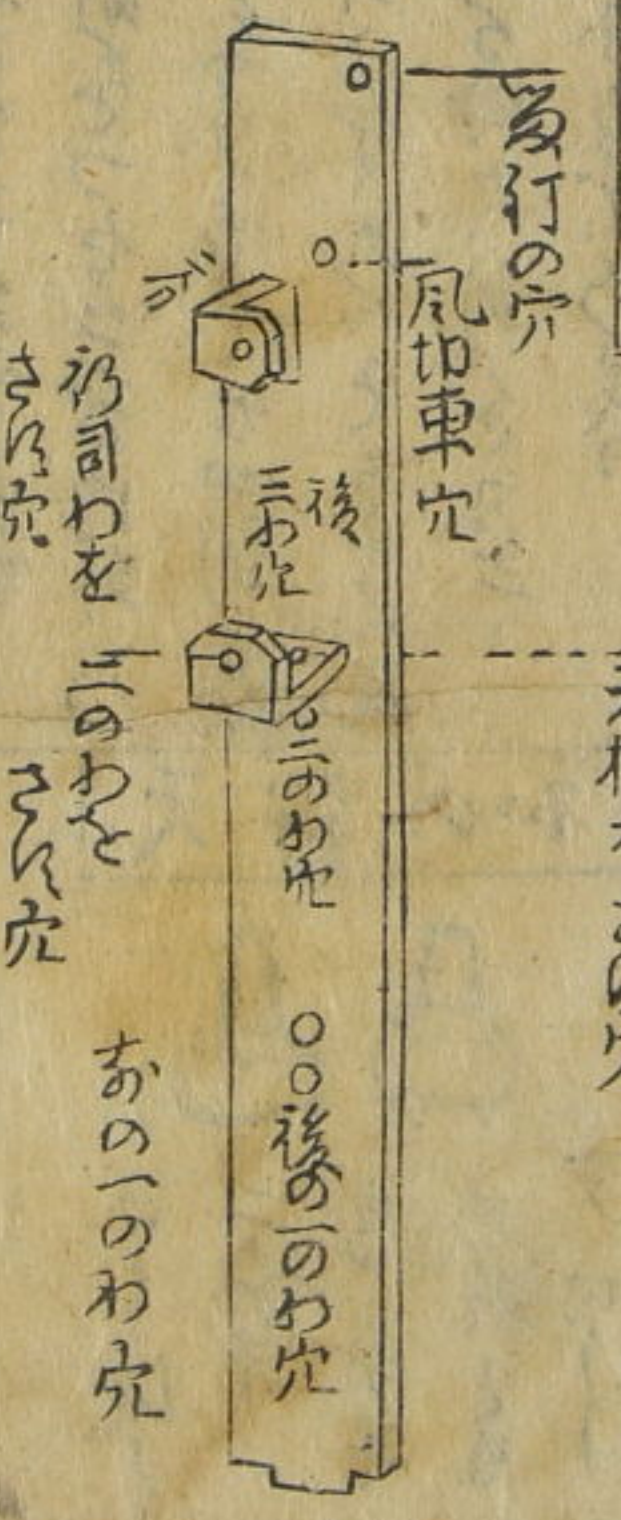
右の中柱



穴行の穴
二つ枝金さへ穴
け板のすけさく細くさへ

一行

中柱

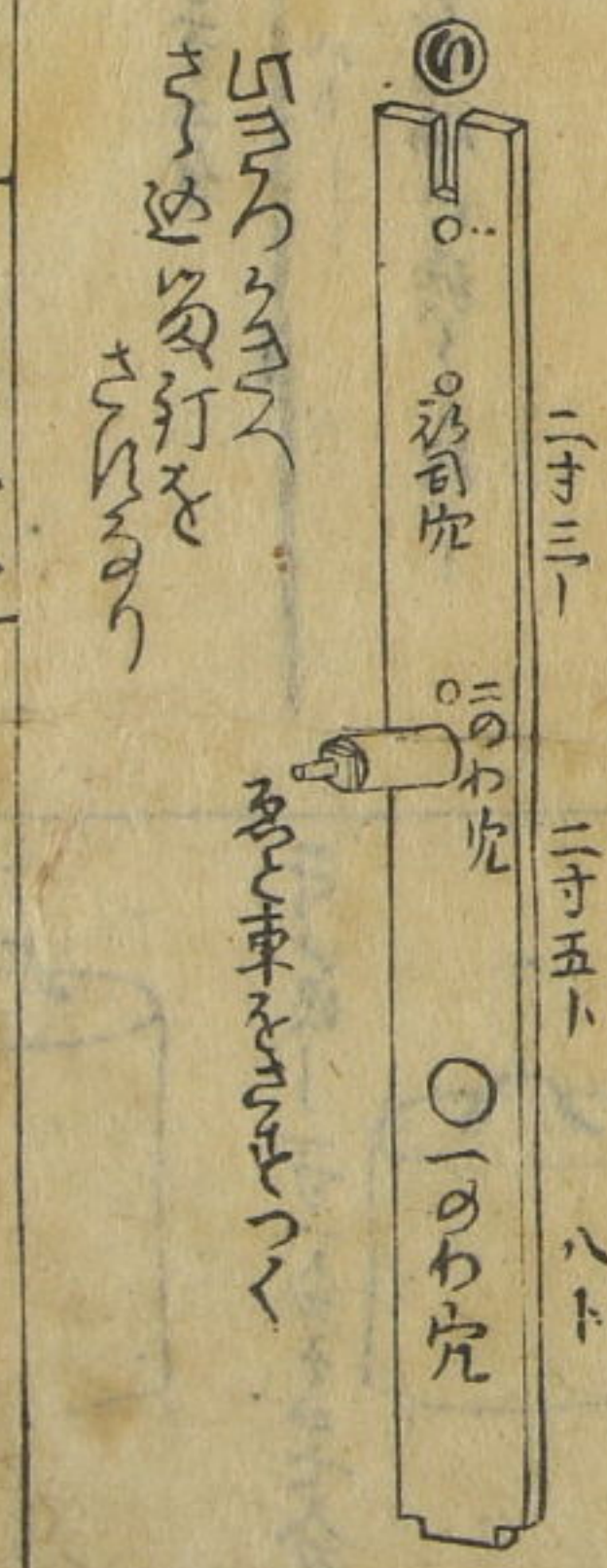
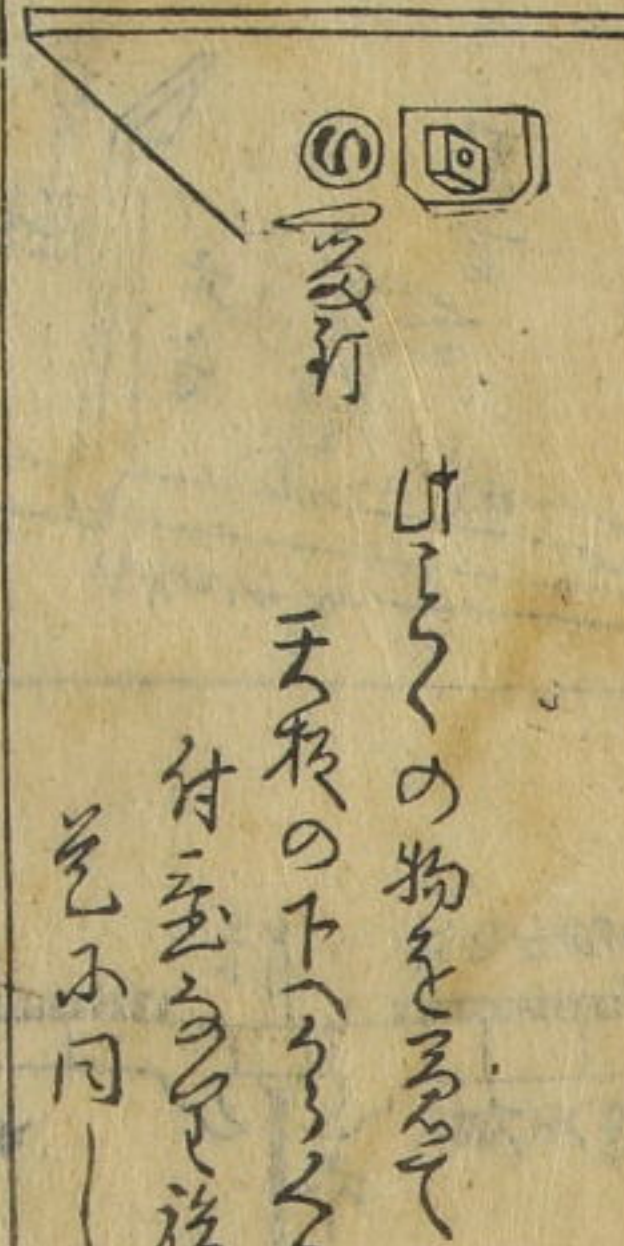


右の中柱は上おこしあして一行をさへらり

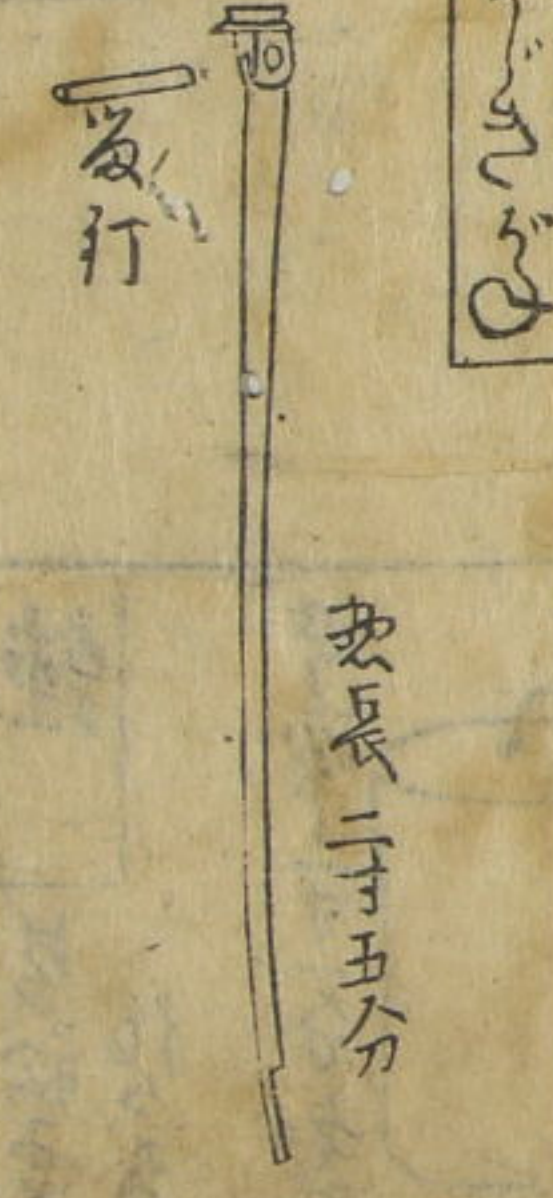
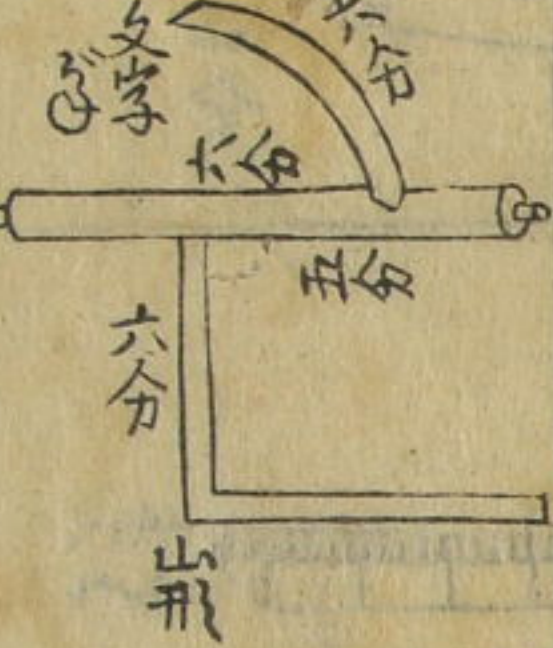
前の中柱乃仕組

まの柱

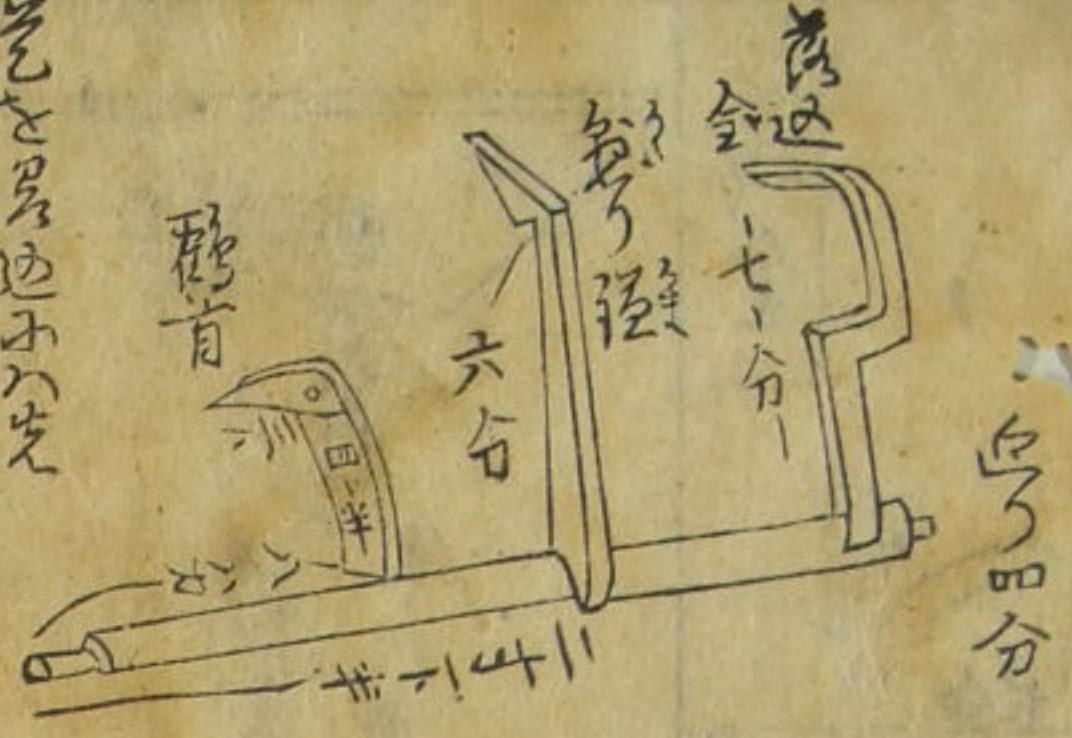
扉の孫ちをさへ穴



二枝金

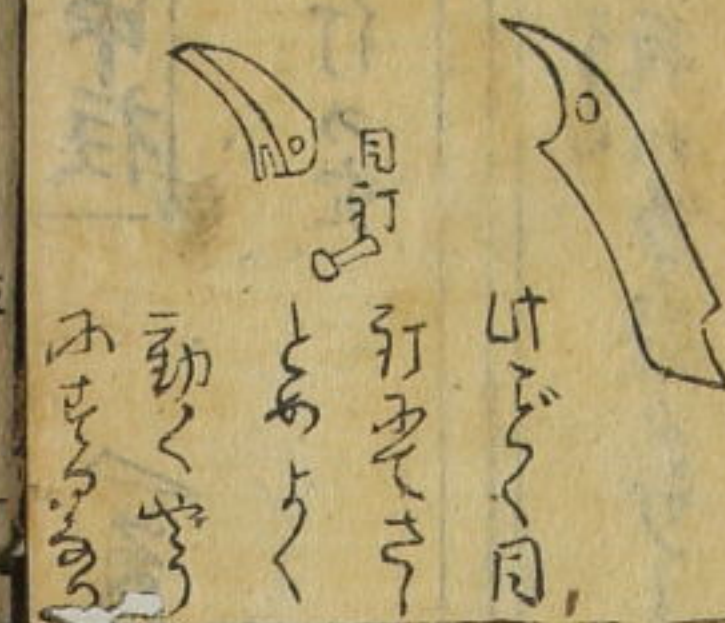


三ツ枝金



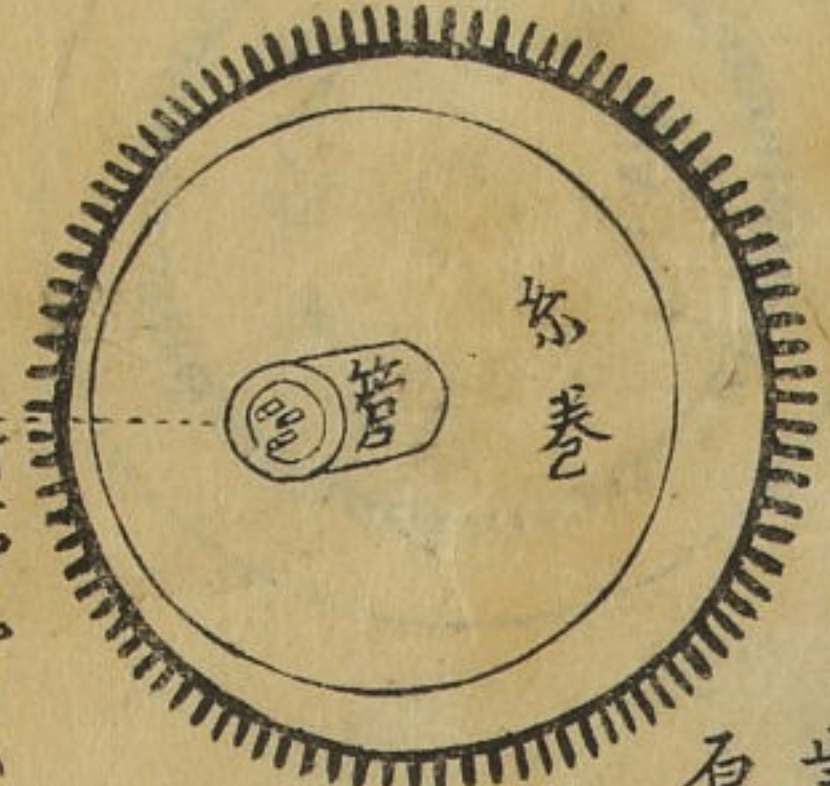
此を各辺の先
前の指さしもちよ後入
本板(ヤ)をもぐりおさ
かや後よあの前よお
さゆらぬやうにすま

鶴首の仕組



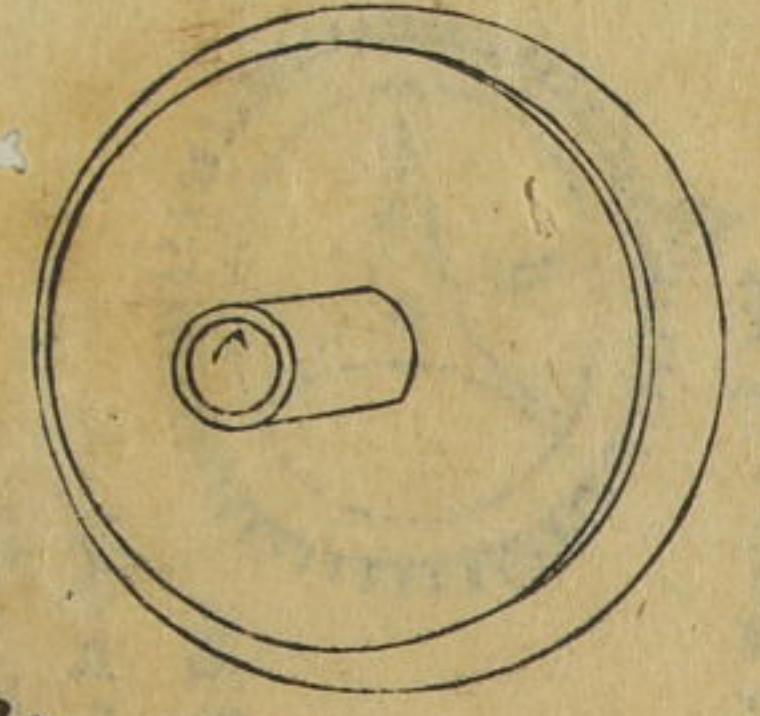
前二の輪

前後一寸五分
歯くぼき十二
厚六まん



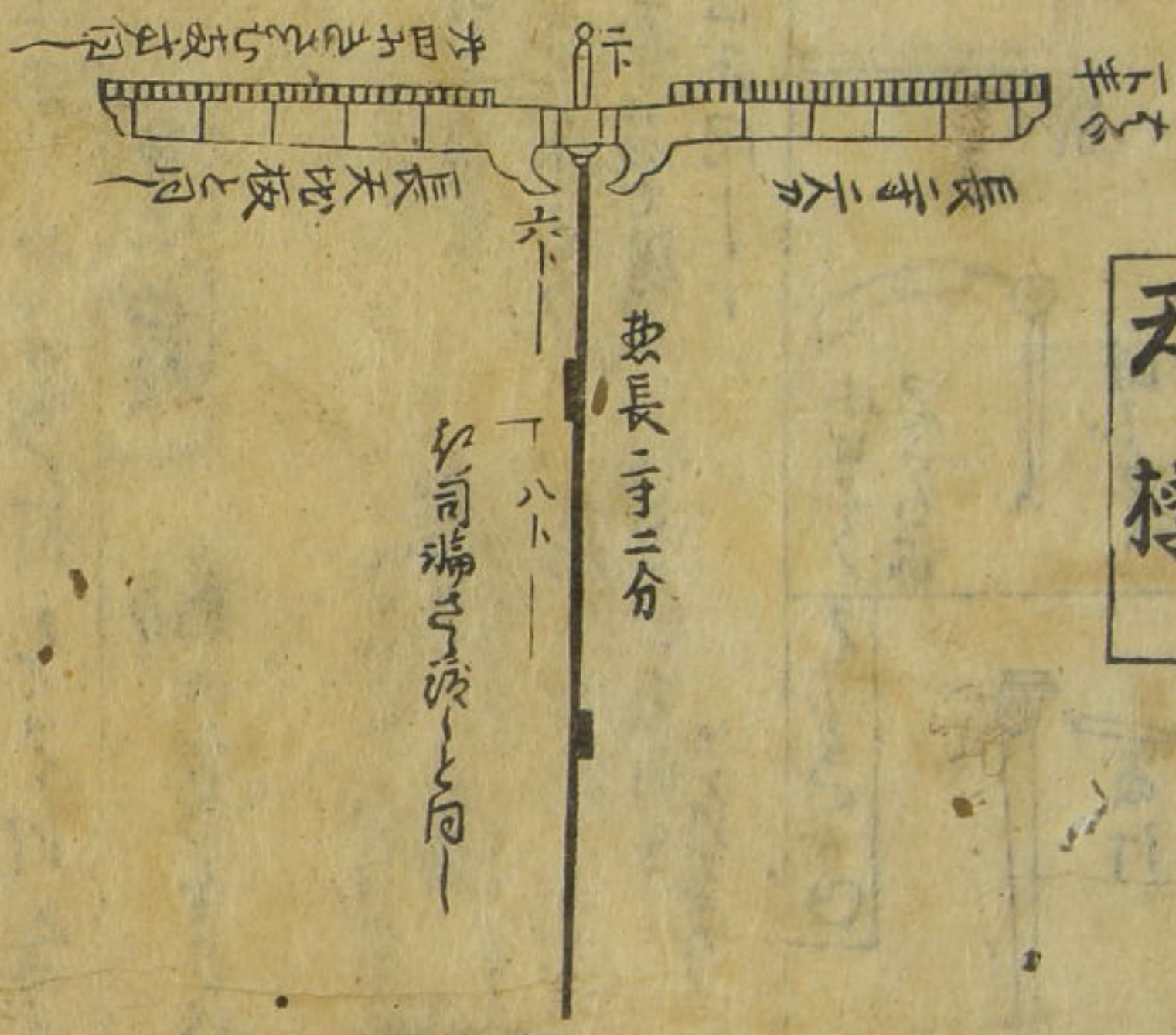
けりあふ丸と三つ付
こまふて時をんをさそ

いと巻



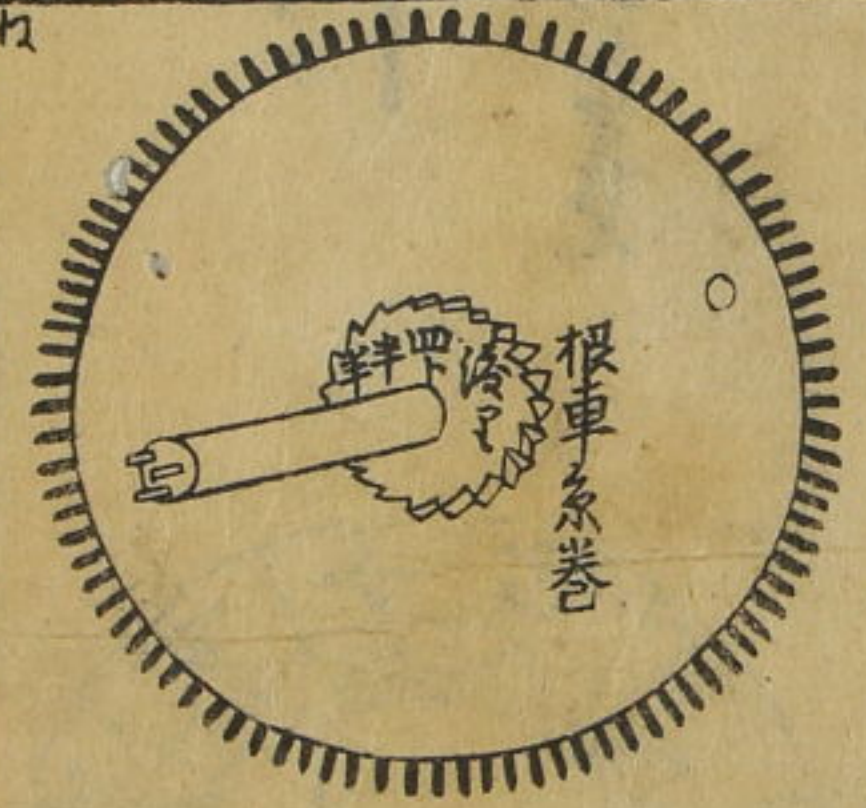
紐ありのわ
糸の三寸五分
後の糸巻も同

天椀



如げ先ち口りをぬるふりまきちと又
あつあつと小さく割をつらむ内外乃
あつあつと厚くはふりまきちと又
うやふせむと或ハ外下をぬると又
内よき丸をぬると又

一の輪と糸巻と五分

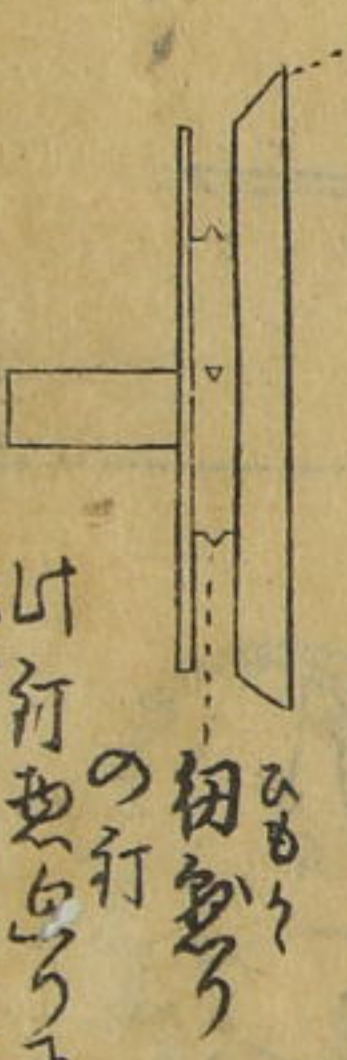


根車丸がりく車丸云々を金も合がりとるを

同車よりなる



けりあふ丸と三つ付
こまふて時をんをさそ



紐ありのわ
糸の三寸五分
後の糸巻も同



一の丸
一の丸

鐘

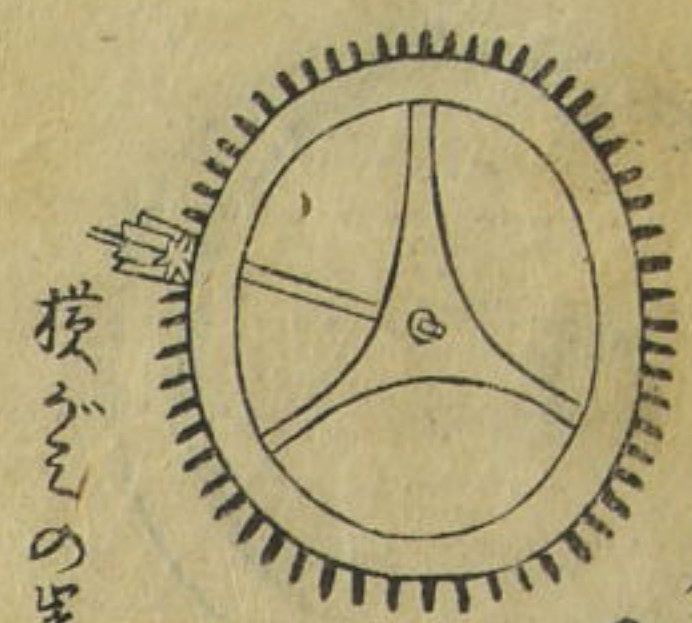


長一寸一分五分



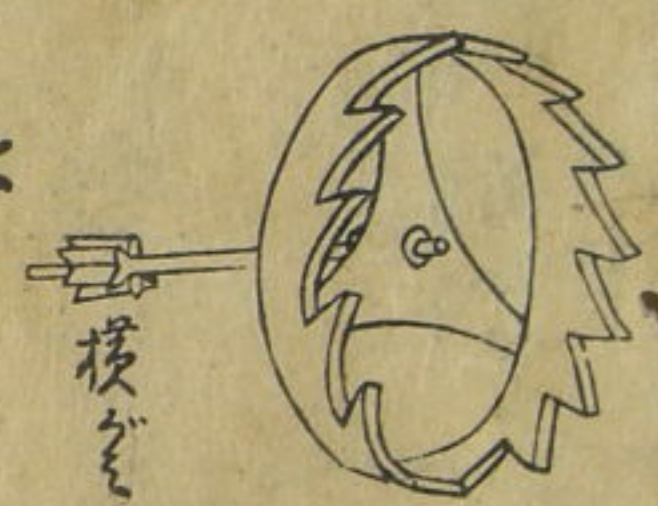
一ハト
二五分
一五分

前の三乃輪



さへ径一寸二下
厚五厘
齒數二十
模を六つ

行司輪



さへ径一八分半
齒十五
模を六つ

時盤

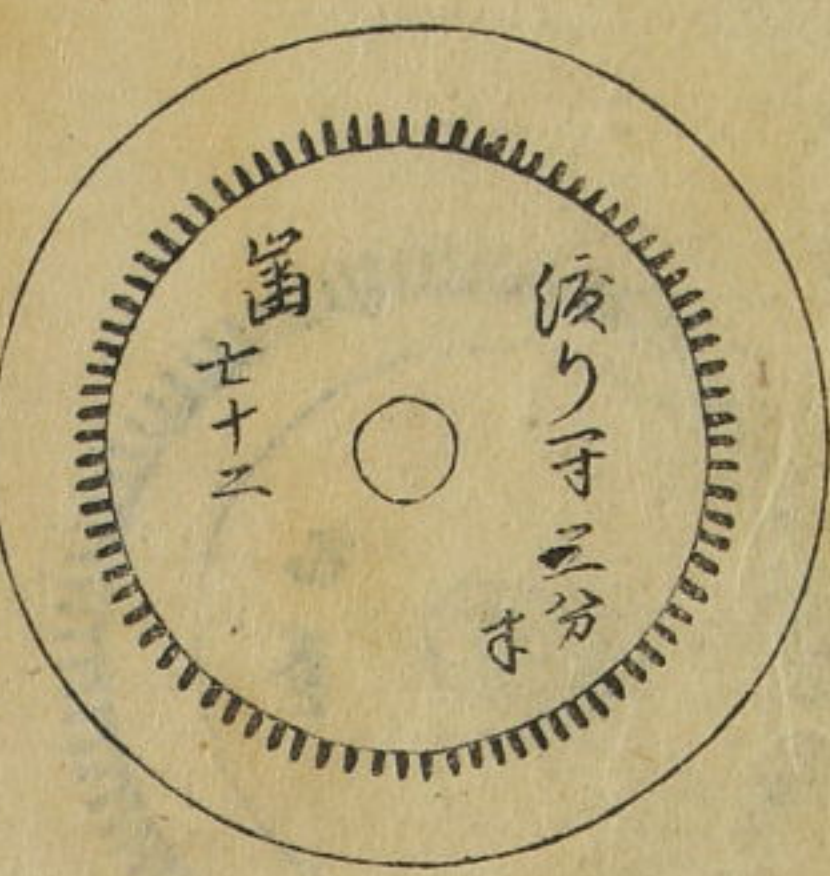
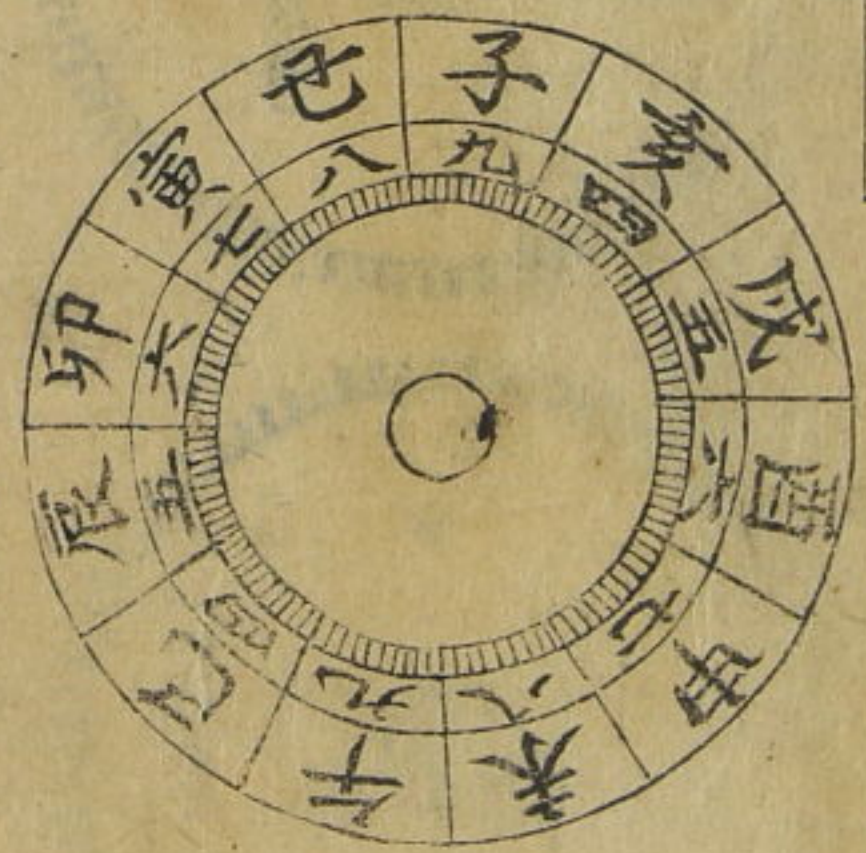


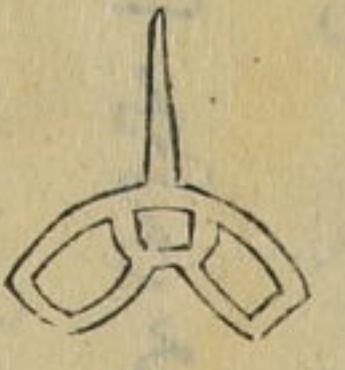
表
裏
二分八厘の長

時盤



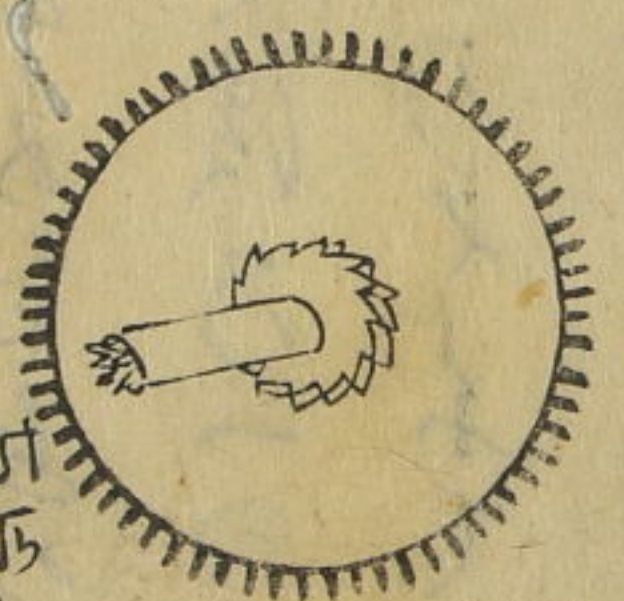
表より二寸五分

時針



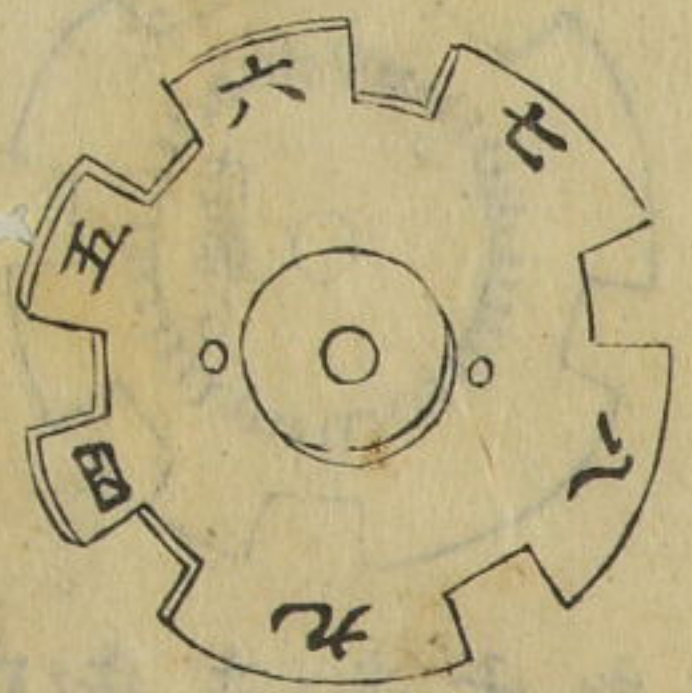
時針の長一尺一寸五分
さへ径一尺一寸五分
厚六厘
齒四十八

後の一の輪



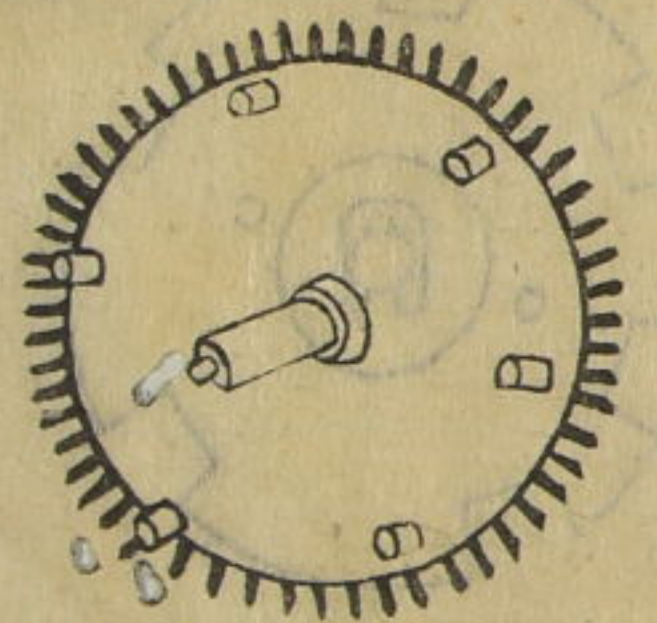
さへ径一尺一寸五分
厚六厘
齒四十八

雪輪



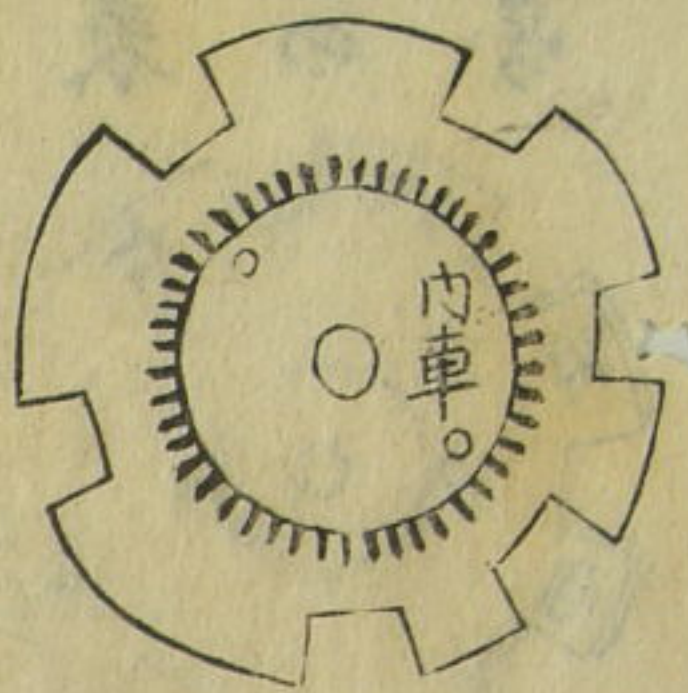
さへ径一尺一寸五分
厚五厘
齒數二十

一の輪



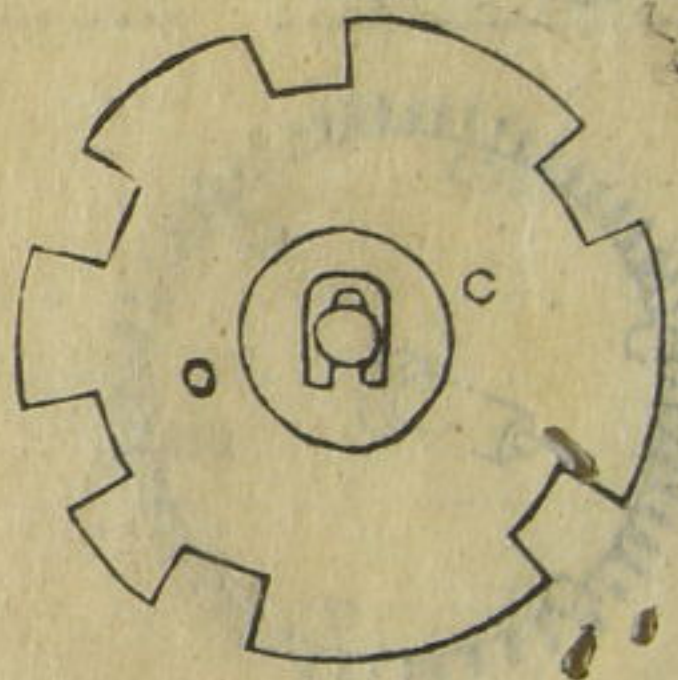
さへ径一尺一寸五分
厚六厘
齒四十八

雪掃裏のづ



内車拾後一七分
齒四十五是二日
或一夜の擡の
教あり即ちより
七のまをより
教合せ字あり
あふけ車毎日五
一五ん夜(るん)より

内外車取よりり圖



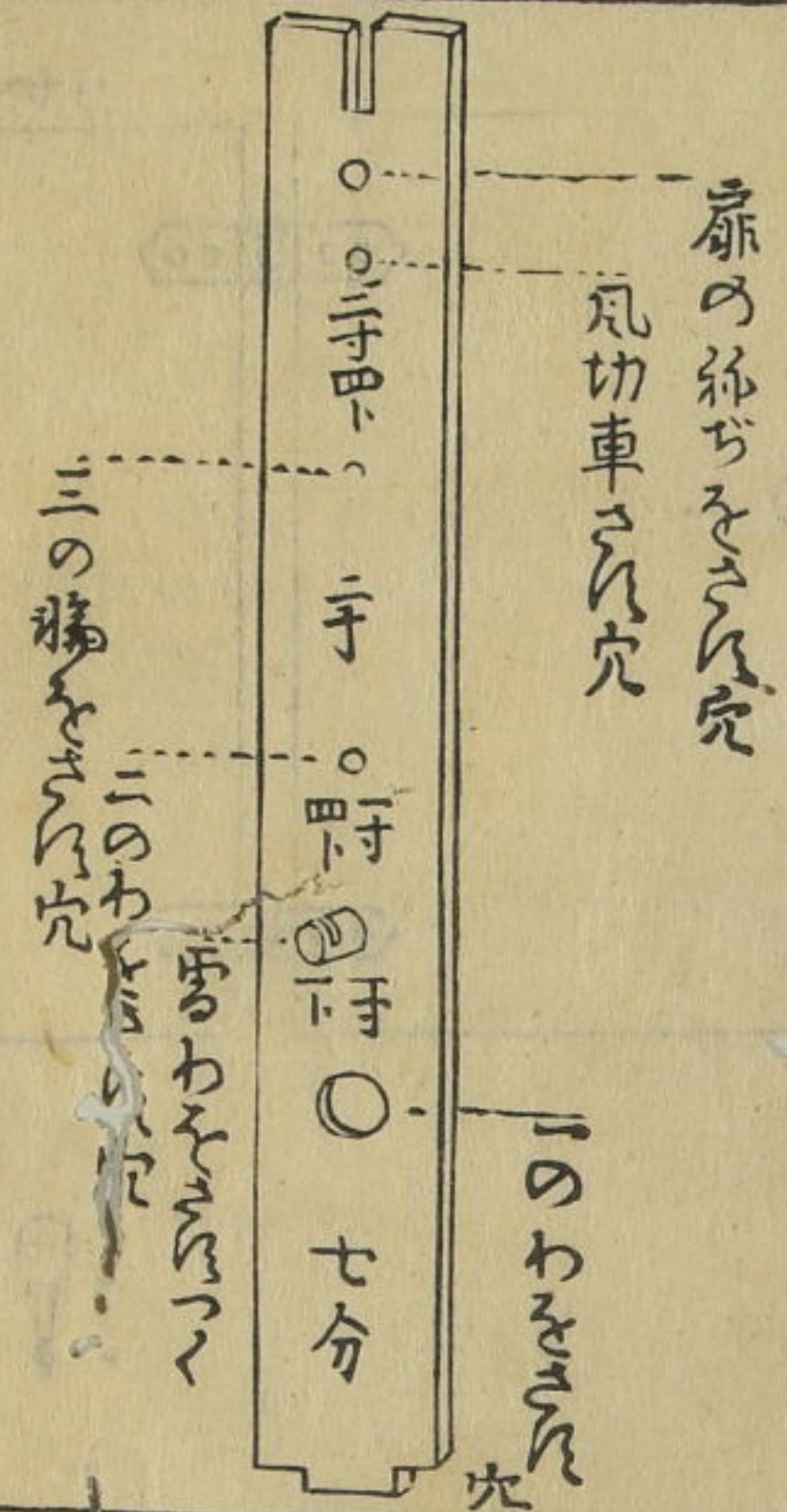
けりく
あふ制
して打
おてさ
合まら

拾後

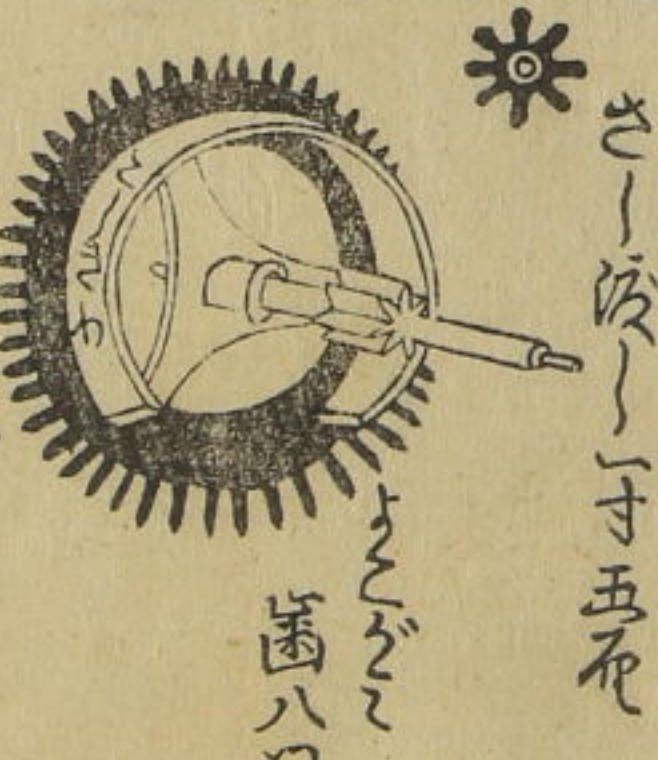
雪掃をさけつこより
目りかてはきかてはさる

後の一乃掃の心持乃より一の凡ふてけ根車をとれや人雪掃
一亦ふとらあり凡ふてて字を点れんや人雪乃一乃
掃七五半とらありこま小依て後乃一の掃ハ一益板十五
五とらあり亦乃一の掃の心持乃より一の車をとれん
是と同一凡但一是ハ凡ふて七十二とらありや人一の掃ハ
や五とらありと車一五とらあり則一益板十五とらあり五とらあり

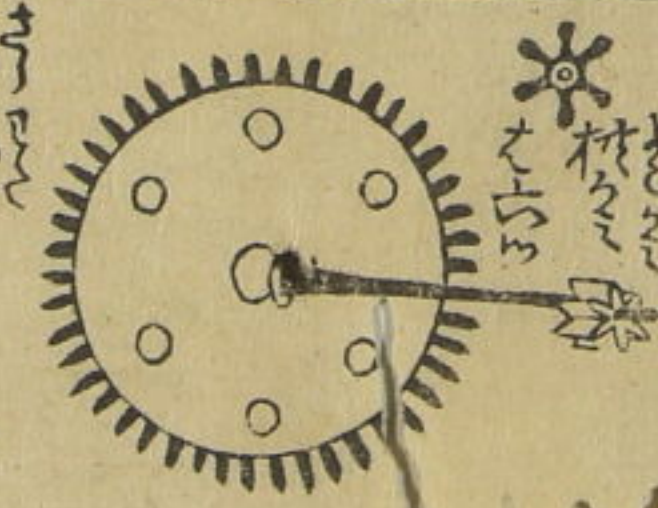
後の中板



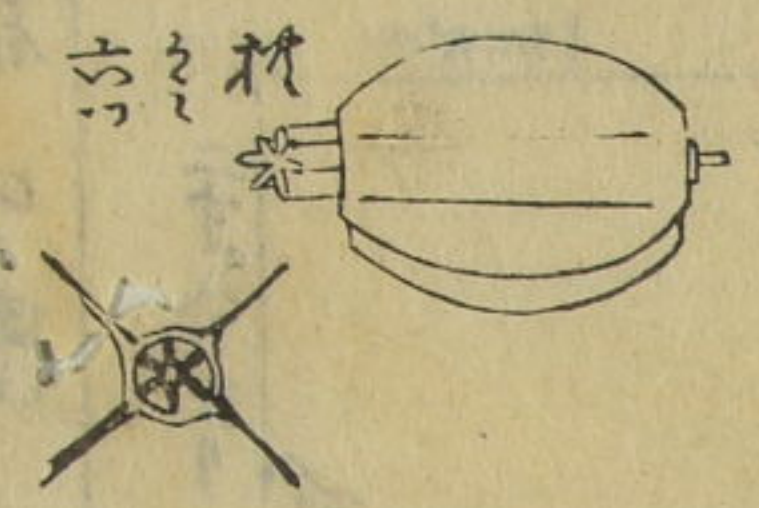
後の二乃の掃



同二乃の掃

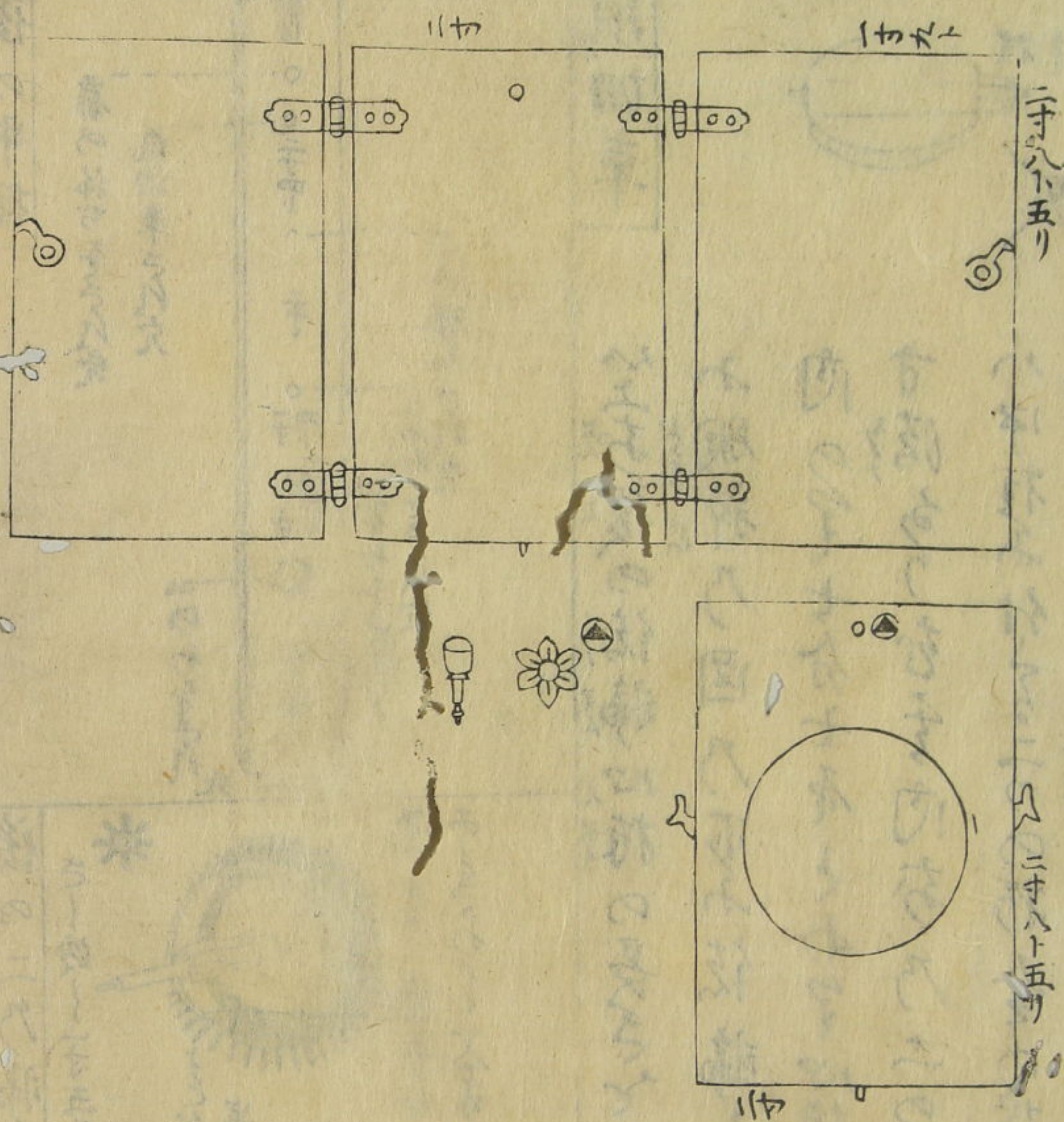


風切車



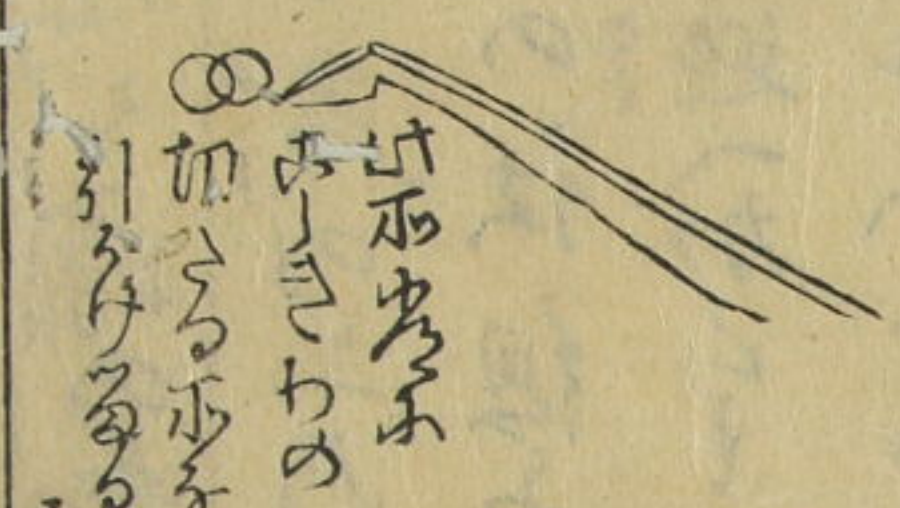
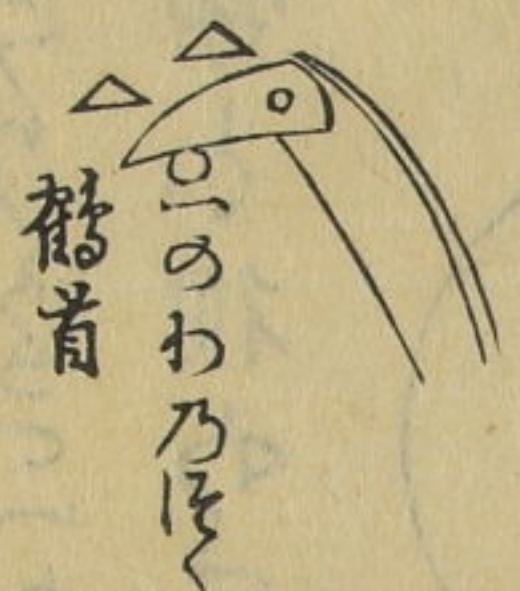
以上お後の依掃心持の長さを載せらるりのいお
小朋幹乃圖乃亦不依掃をさけ板と板の
内の字七分七厘とわや心持はまも皆この
寸法ありをそ内亦乃二の掃行司掃の二
ハ中板不付と二のの板金の板長二分を引
板の字心持の長各五分七厘と知れ

扉の圖



鐘を打乃理

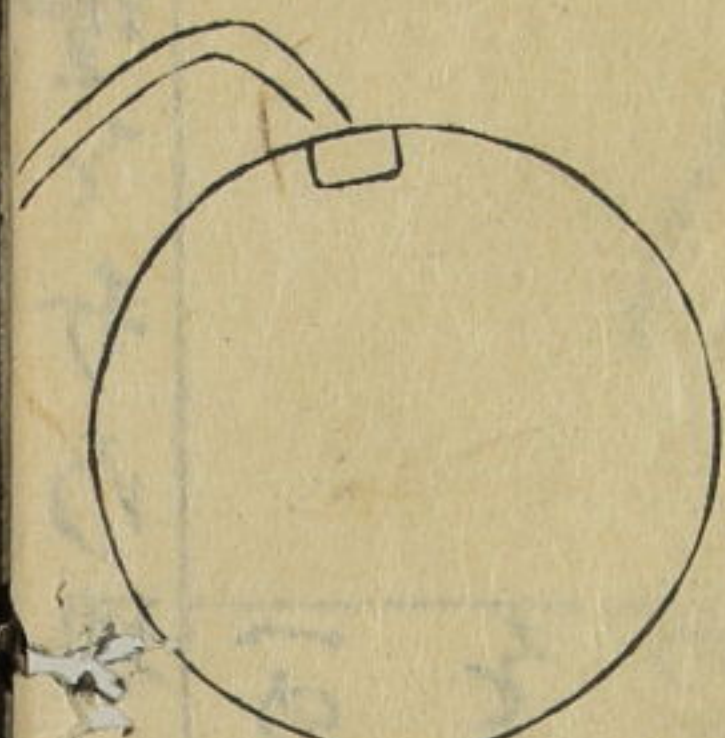
先おの緒端をうらとせむるふまをうらとせむる
 一の端乃ほくをりて平者密れて長る水の端
 を際とせむと上げて終子如け撥小なまを△に
 のふらうてそれよるうらとせむる能く依ては後
 の二つ枝葉の如くむけてぬり後
 上るに終小こしと端をうらとせむる後緒端めく
 せむるをうらとせむる時鐘音のほくをうらとせむる
 ておらるなりそは紐のから後のはに四つを乃
 示こしとせむる如くして鐘音をうらとせむるを
 うらとせむる如くあり依て端を一つうては直ふ
 へしとせむるの切只るあり紐又後を肘のうら
 とせむるは紐の如く端小有る其次左のうら



幾り圖彙

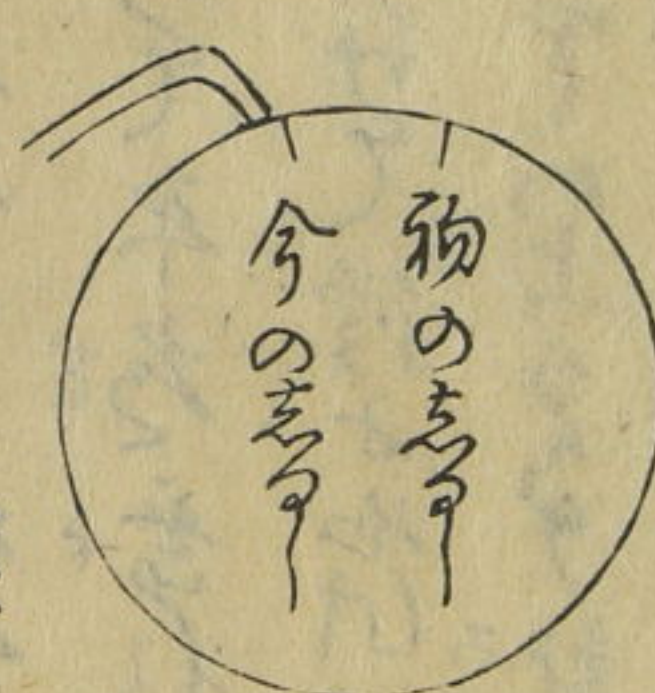
鐘を時の敷打の理

本鐘の二乃端一遍旋る毎小鐘とつづく打あり物るふ
 太の仕組おてハモ一乃わハるん止まハ直ふそこ一この
 切込ハから後ろらんハも一ツげらんあり物時の久ハ合
 やり小なるハ先雷端を制して極一ツハ切込ハ切込
 後の車を止して停を打ててハらん後ハこ一ツ停乃
 きりらんハからんと止るやうハなるらん時迄込金と音
 端と相わるハハ端の中ハ

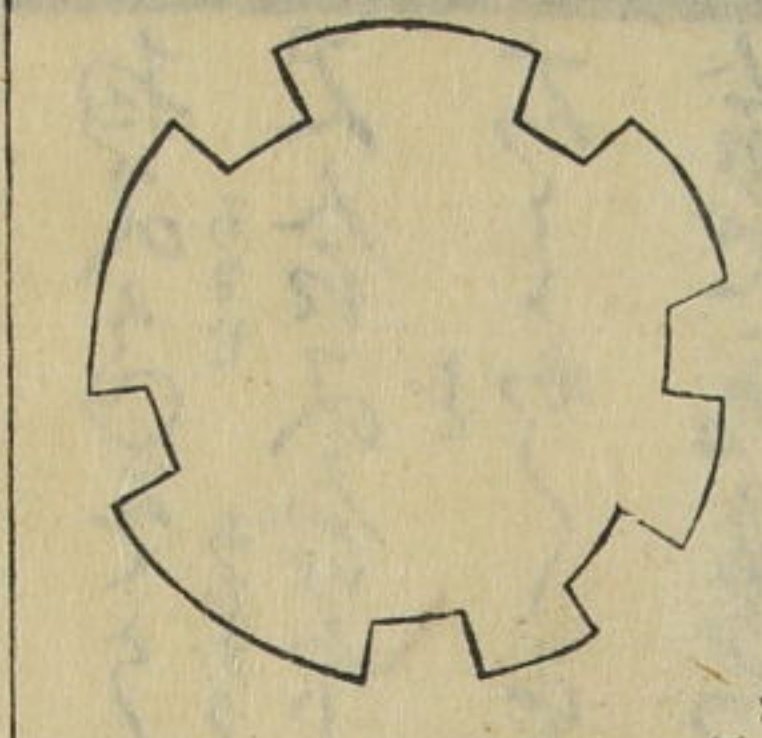


平を付くあり
 又右乃どく止そ
 下ノ圖乃とく
 平を付る

を物ハるマま乃ハ付後ハ左付らん



け支平を聯して

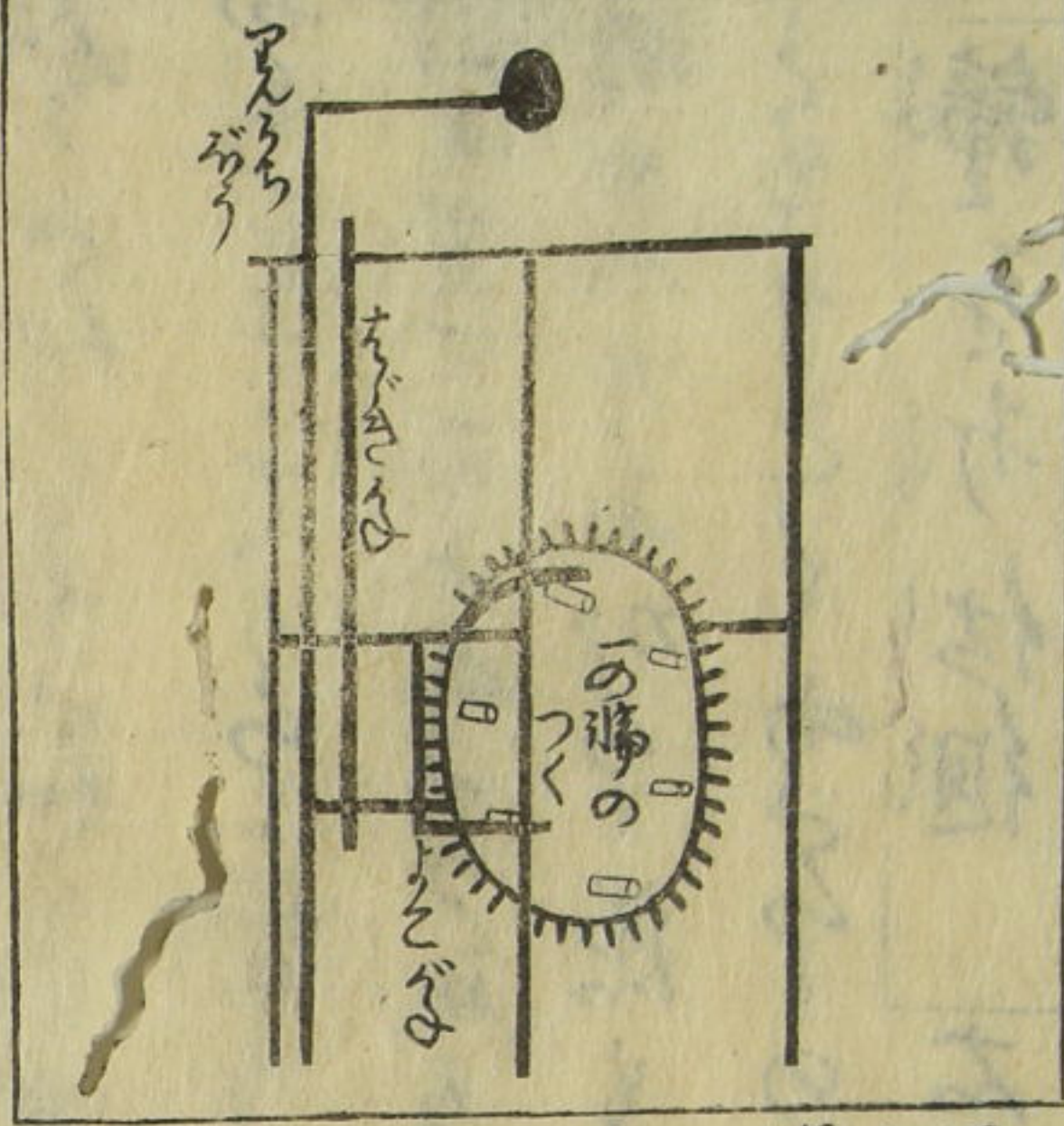


一ツをせて左ハ付け支平を聯してそま
 又後ハハツ七つとまハ端一ツげ打せ
 そまハ平と付け終らんあり一ツハ端付
 扱そ平と後ハハるハ端中ハけハ切らんからとて

今らんくハるハ本時ハ切込のハ
 ありとてハるハ端中ハ切込のハ
 けまハハるハ端中ハ切込のハ
 込ハハるハ端中ハ切込のハ
 ともそまハるハ端中ハ切込のハ

鐘を打仕組
 右二ヶ条皆鐘を打死すの理をの
 するハるハ端中ハ切込のハ

實小儀を折仕懸を定ふるより左の如し



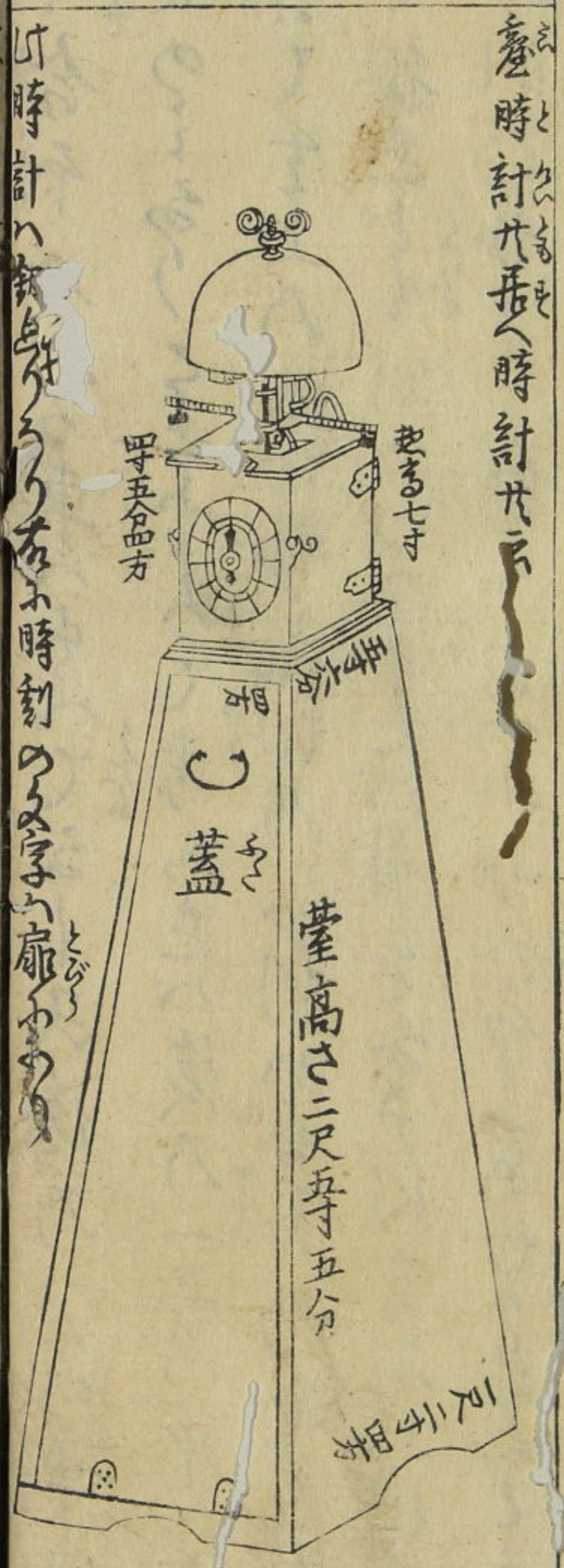
骨の如くをさしおいておておふ冷打機つづの
 横金よこごをさしおいて振るおを一の輪わを
 ぐらつてそつくとをらつて一文字えんじの
 なるよとらるん其お山形やまがたのよ内うちの
 らうゆへおめて横よこのをさるお依より
 て懸つらもたお内うちのよ入いまらうを終ひ

お一の輪乃はく一文字の力ちからがづるよ懸つらめてよをおつえ
 相又あひまのよをらうとよぶおかたて懸つらるやうお思おもて一二乃わを
 尺合あひあ又合あひあを付か懸かくある物ものと後のち考かんがの切きを
 ちやくくはらうとよぶお車くるまをとらるらうてよけ合あひ
 合あせ元もとなるよさるらうなるよ鐘かねの教しるしをお損こらるらう

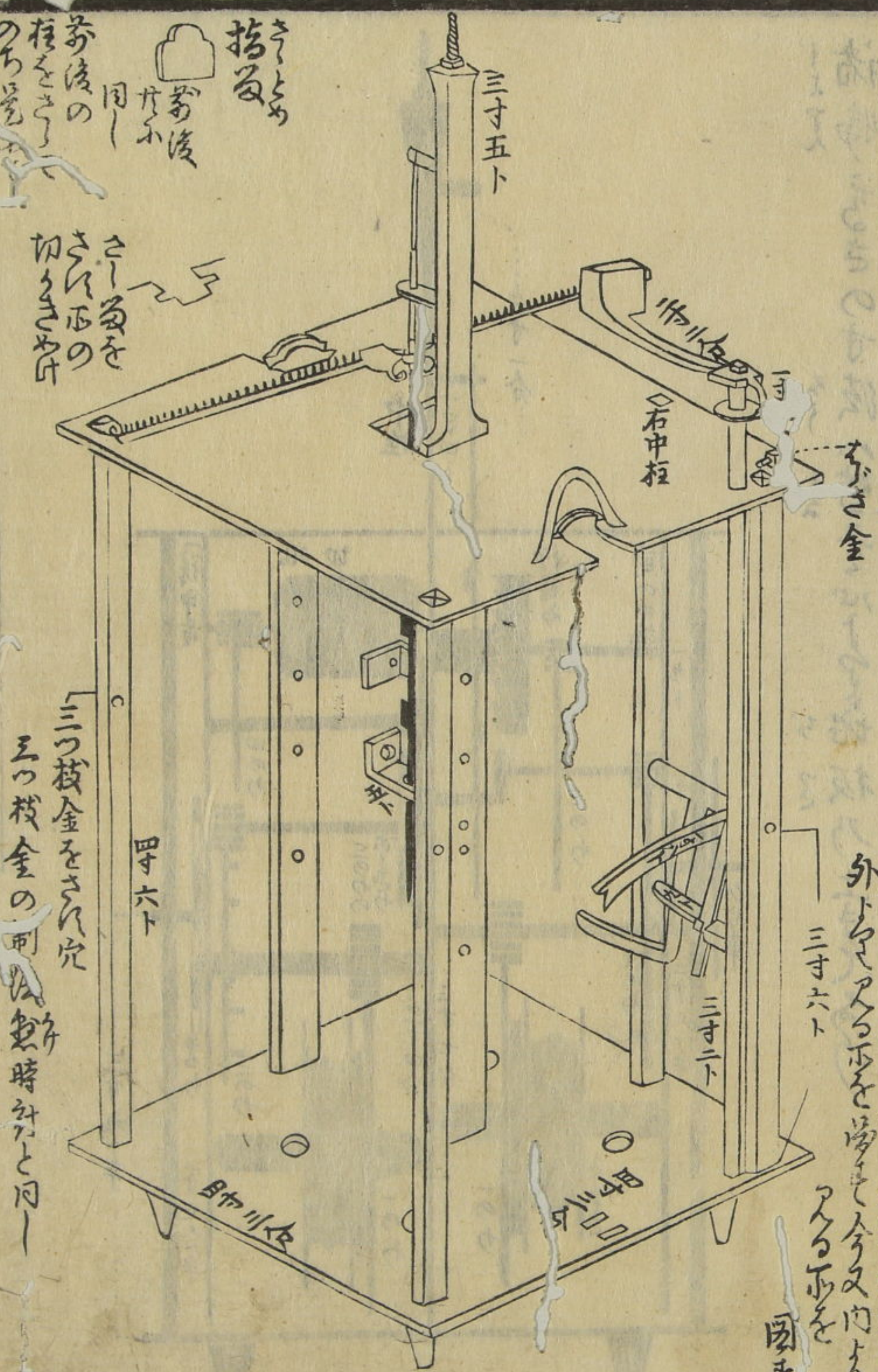
外ほかお合あひを折おりある車くるまへよぶてよ一ひと只ひと後のち乃一二の車くるま乃
 取合と合あひのよありこまよよらつて考かんがめよ後のち乃一二乃車くるまのよ
 用もちめてそ上うへ乃三の輪わ風切かぜきり乃二乃の音ね乃相あひと尺
 なる物ものよけ二乃かなよ用もちをさるらうてよけ二乃
 かなよ其そのく鐘かねを折おかたてよおらるらうとよ
 おりや折おりむよむらうらうなり依よりてけ二乃なるよを
 用もちをかなるよ能あたりよ上うへぶおひよよ時とき計けい乃そよの
 うつりありけ寸法すんぽうお依よりて制せいめよ亦またぶおひ能あたり
 時とき斗と出来きよ又また或または是こゝよりよ大おほきお作つくり或または小こり
 作つくらふは弦しん輪りんおけわら合あひをらつて増減さうげんして作つくらぶ
 候まちはよおしおし乃大おほき右みぎの通とほりおてよ思おもへよ
 至いたりけ日ひを合あひをらつてよらうらうばそを原もとと

時計の天板と意地...
 刻も少くてもより又小なる時計など多きつては極乃刻
 多しとては...
 してゆるやくふる...
 天符短くして多ふる...
 され依て振付時計ると小...
 車のなるを増はる

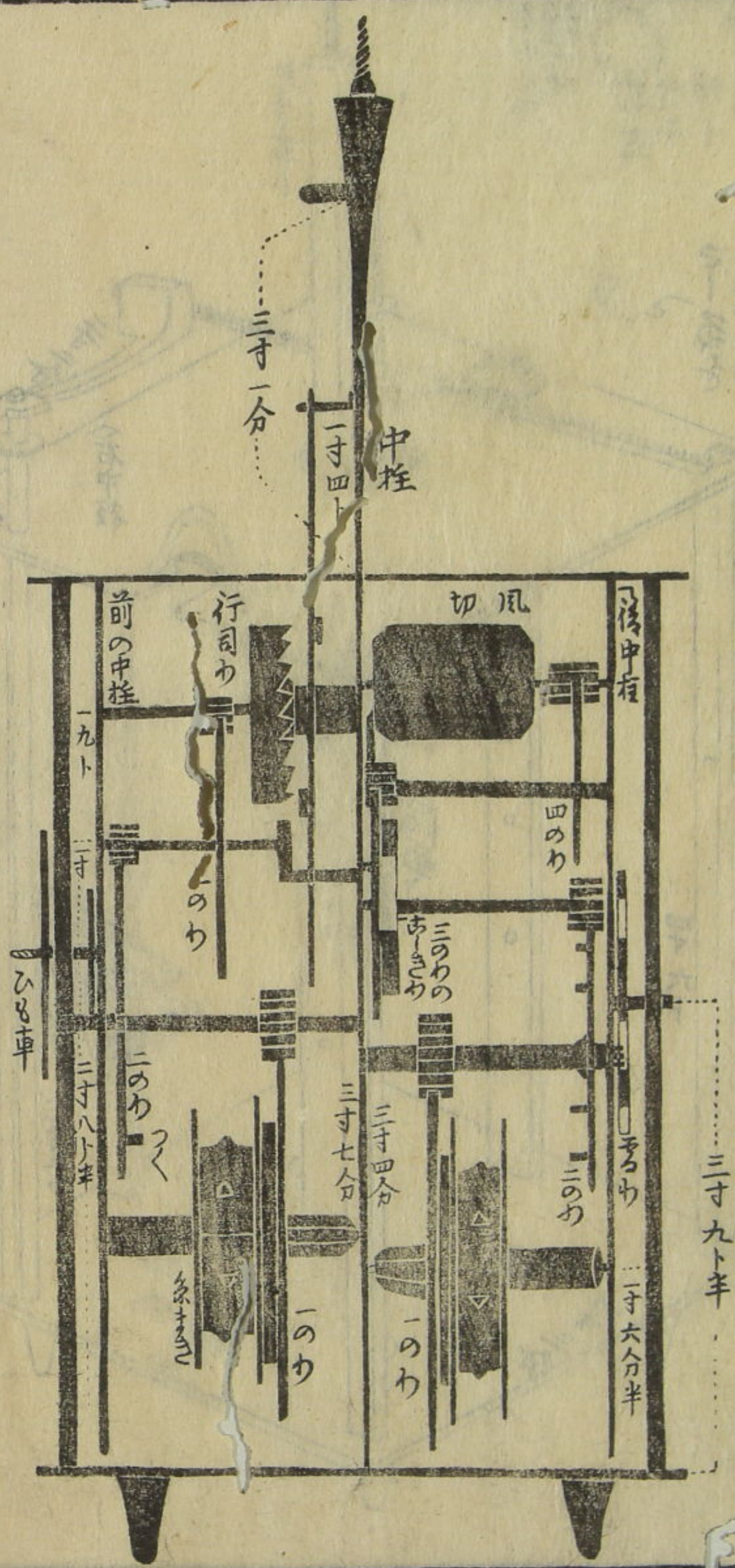
槽と時計



胴躰

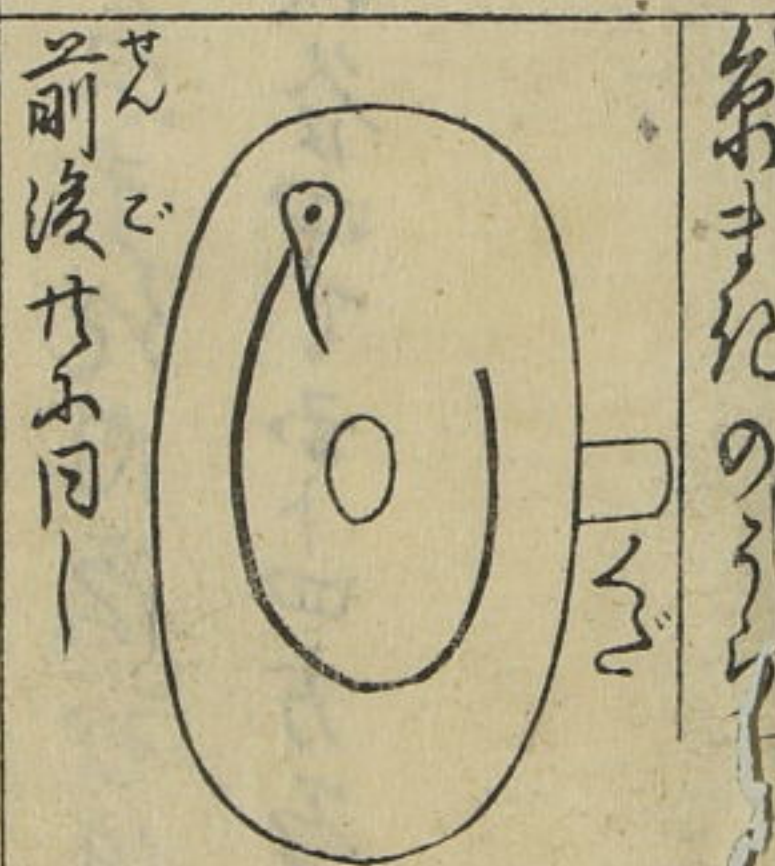
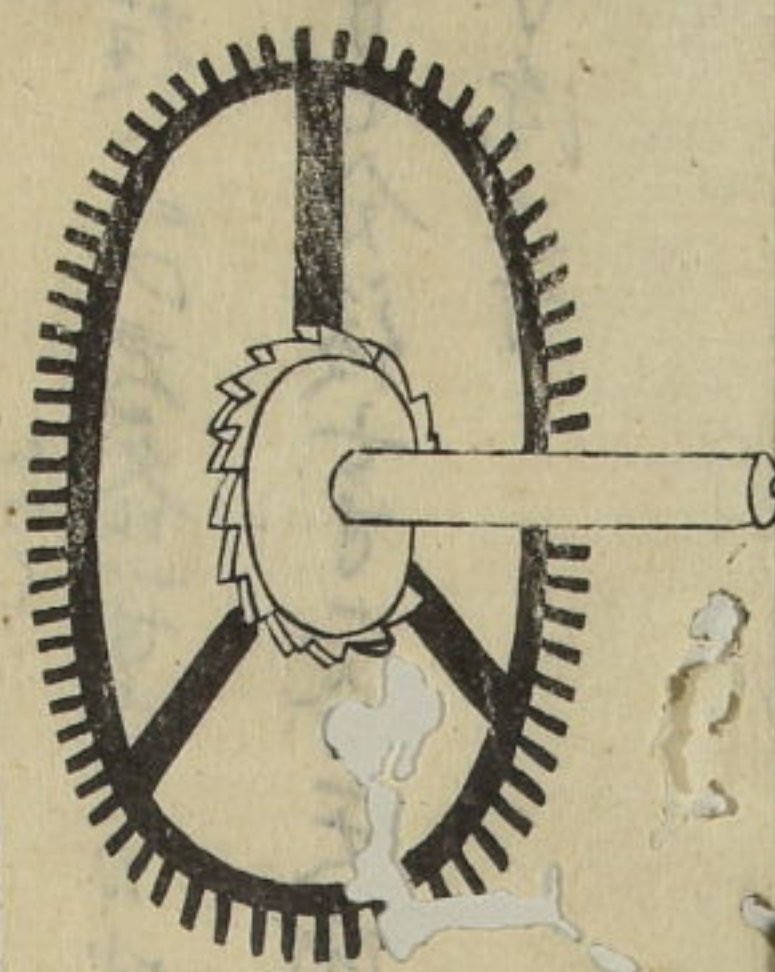


車取立左トクスルガ



諸輪の寸法は皆を心とて地板乃上まてり

一の輪

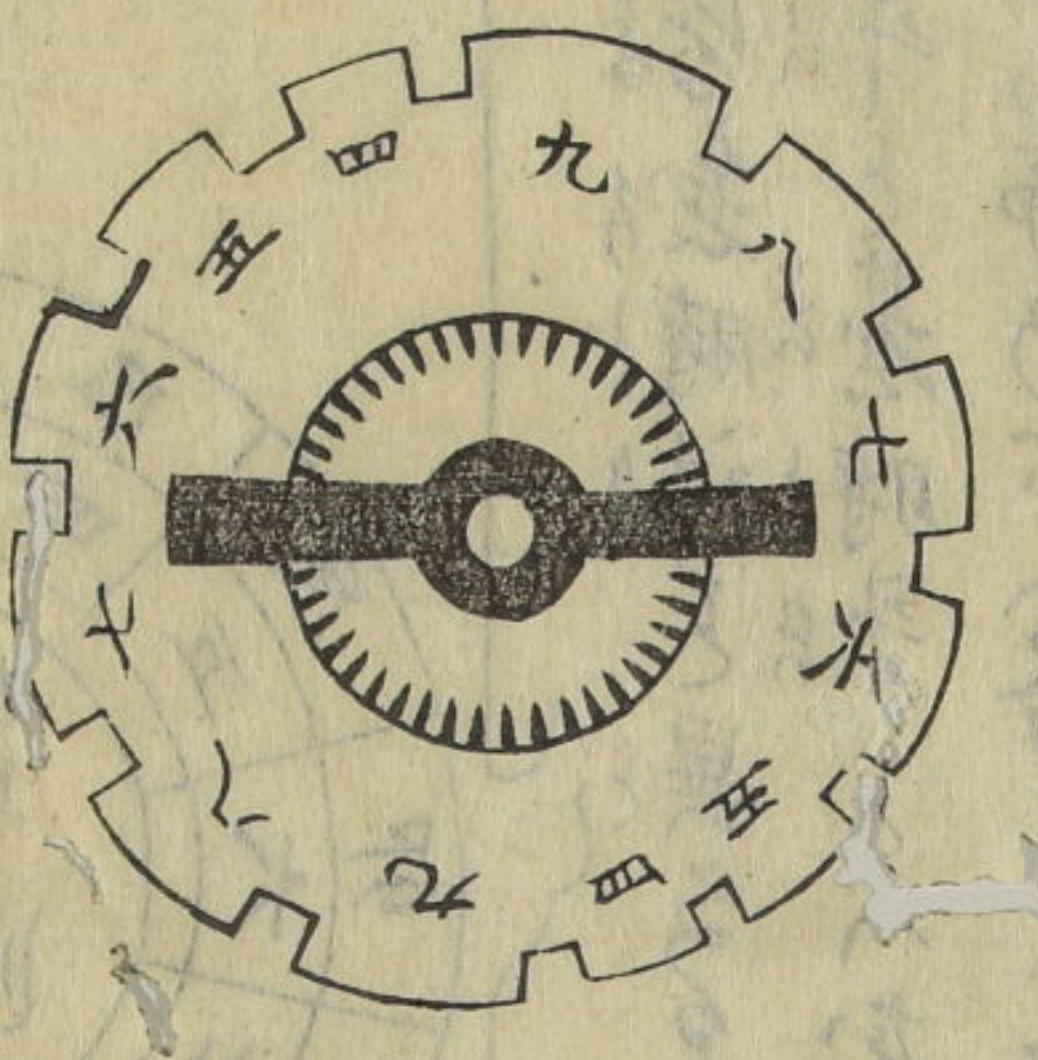


前波サレ同
歯の時針と同
歯の向きと金金の
向きの掛時針と
相及る個行司
輪と天浮との向き
針の時針と同

○前の一の輪指液一寸四分歯七十二厚子一分五厘幅二寸四分
 一齒代後同形齒深一分幅一寸四分
 厚一分余幅一寸二分半組齒廿齒六十四様々齒十はく一つをよき
 心符の凡三の輪を懸く○前乃三の輪指液一寸五分半厚幅二寸四分
 皆一二乃輪より小なり前小準して多し一をよきを懸く
 ○後の諸輪做一齒五十四様々の齒六○行司輪指液一寸
 齒十五○後乃一の輪指液一寸一分齒六十六○後の二乃
 後乃二の輪指液一寸一分齒四十八様々の齒十一はく二乃

是より鐘と中心持乃凡三つ是より雪掃を由り
 ○後乃三の輪指液一寸六分齒五十四換がも八毫ふこ一と
 輪をそりる ○後の四乃輪指液一と一と三分半齒四十八換がも
 風切車換々もつ ○雪掃外指液一と一と七分半内指液一と
 齒四十五換がもつ ○及ねくろま 鈕根車指液一と一と七分齒七十二 ○
 ○ねくろま 鈕付車指液一と一と八分根車も同く管あて取まる管長
 三分根名を鈕車とす ○中根三本幅五分厚一分二厘
 ○本根四本あ後よりのうへは五分厚五分の足付一分半中根を前後の
 中根との各一と一と六分半 ○系まね内法あ後各二分五厘同色
 七寸七分後七寸二分天地の板各四寸五と四方厚各一分弱係指液
 四寸深二寸

雪輪の図



後より上面をみるる示

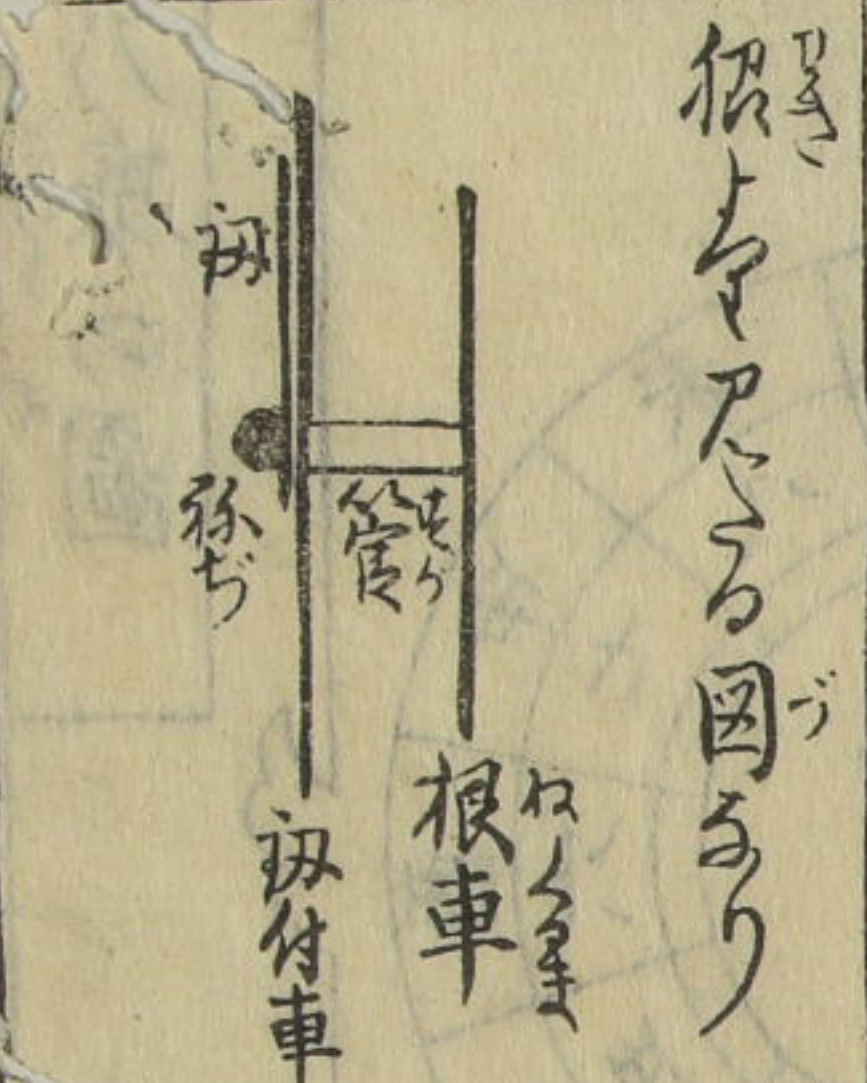
同服

このくろまのこゝをみるるあり

亦の製時計の雪掃の凡三つあて四寸五
 を由り一層夜ふ二層なるを凡三つ
 ありけは組を製とすお用ひても使
 もこふあつては異なるるもなみ凡を四
 おして雪掃乃齒を三寸とすも

同

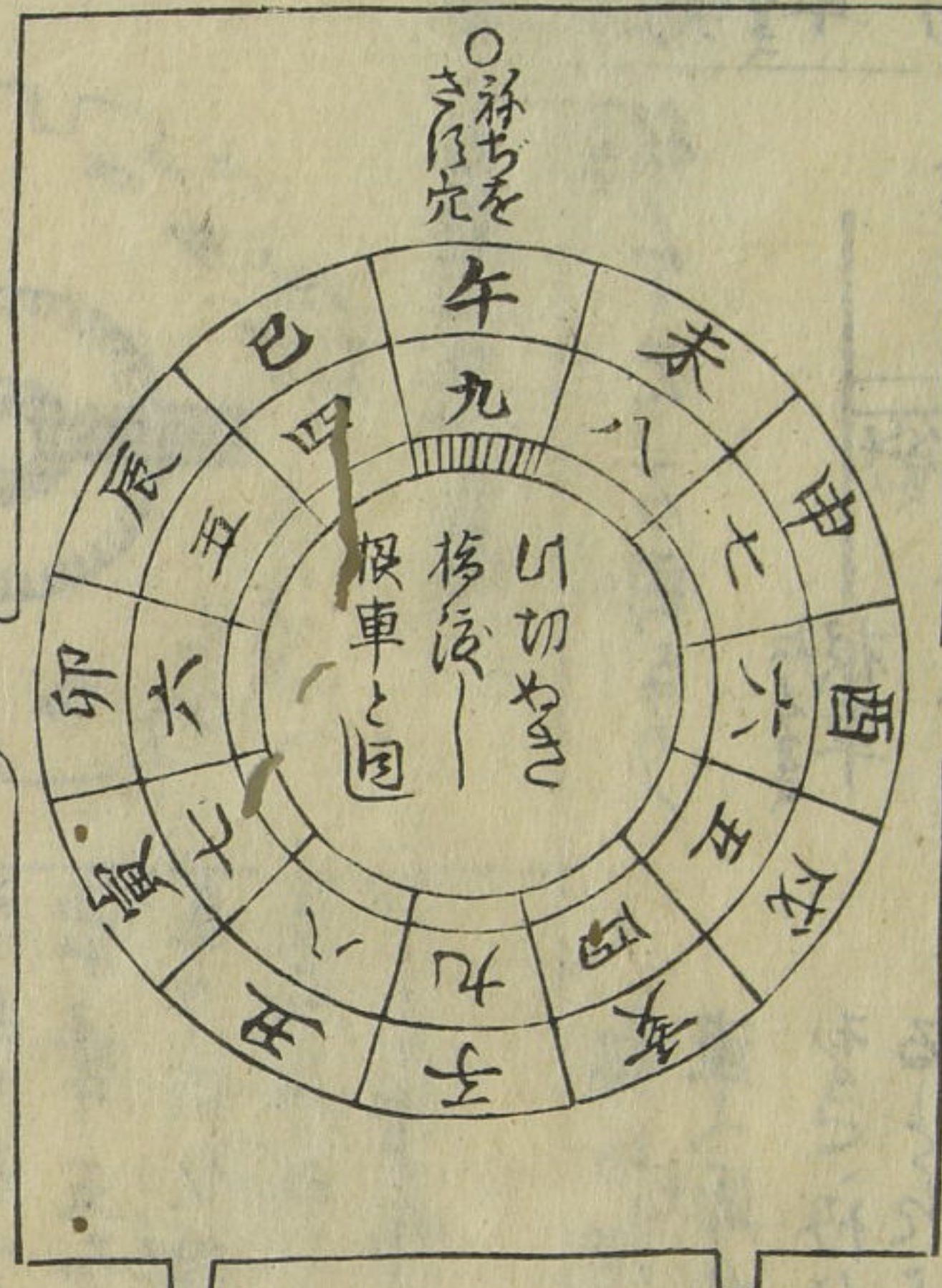
鈕車乃圖



根車をみるる圖あり
 鈕ハ鈕付車へうろくして付るあ凡
 車へ派ふけけとく 釘をお
 おき鈕付車も穴をあけおきは
 るとれたま穴へさすこ

後乃圖彙 卷

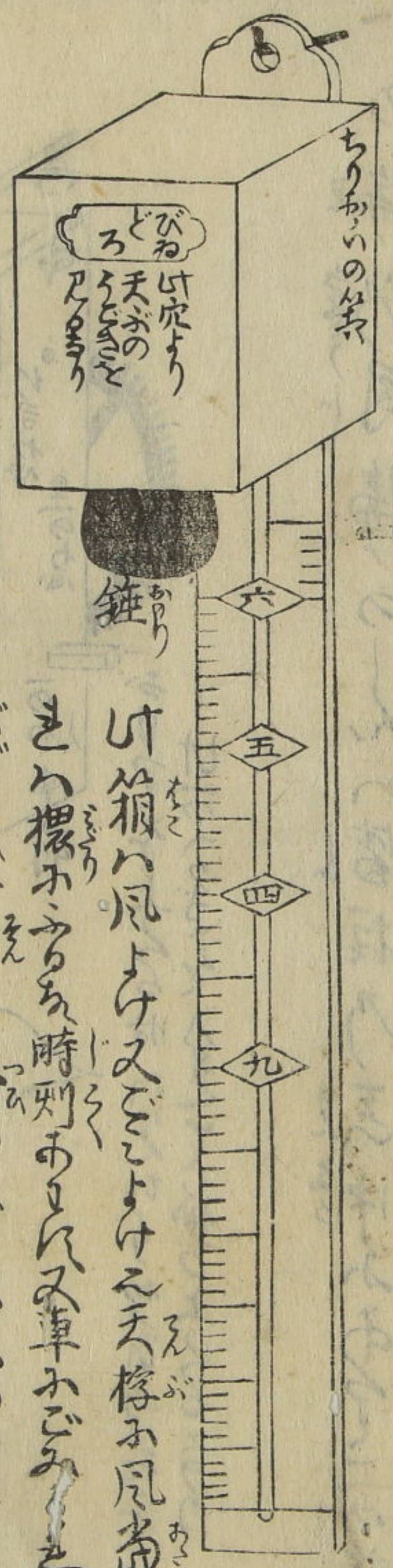
前乃麻の圖



是ハ秤よりあるもの時
刻乃文字ハ麻(ま)の
あるものなり但し一と
二ハ右旋(みぎまわ)り車(くるま)に
ありて左(ひだり)にありて
あるものなり

右皆急時計と異なるものなり
時計と甚(おそろ)し
其(その)一(いち)の端(は)乃(なり)下(した)へ各(それぞれ)下(した)端(は)つ(つ)加(く)はる(は)るものなり
けり

尺時計 漢名 授時筒

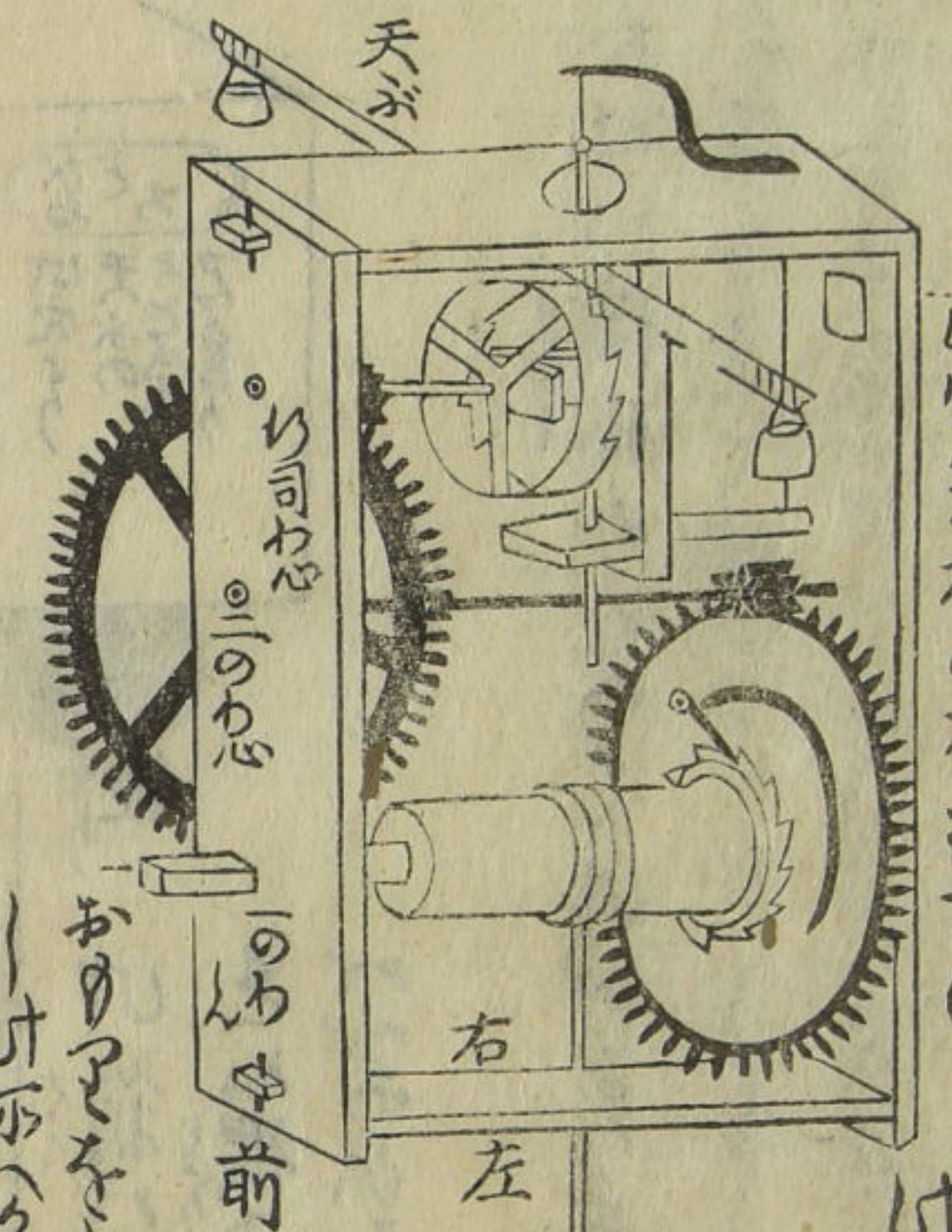


し菱十三あり則今晚六より
し菱自由上下する

袋(ふくろ)ておけハ諸(もろ)端(は)ゆ(ゆ)ら(ら)けてけり
其(その)の文字(もじ)を以(も)つて時(とき)を
おりのち(ち)を定(さ)めて其(その)角(かく)の六(む)乃(なり)おりの
てん(てん)のま(ま)のち(ち)を定(さ)めて其(その)角(かく)の六(む)乃(なり)おりの
あ(あ)るものなり

内からくまの巻図

前の左より斜めなる様子



け穴板の打釘

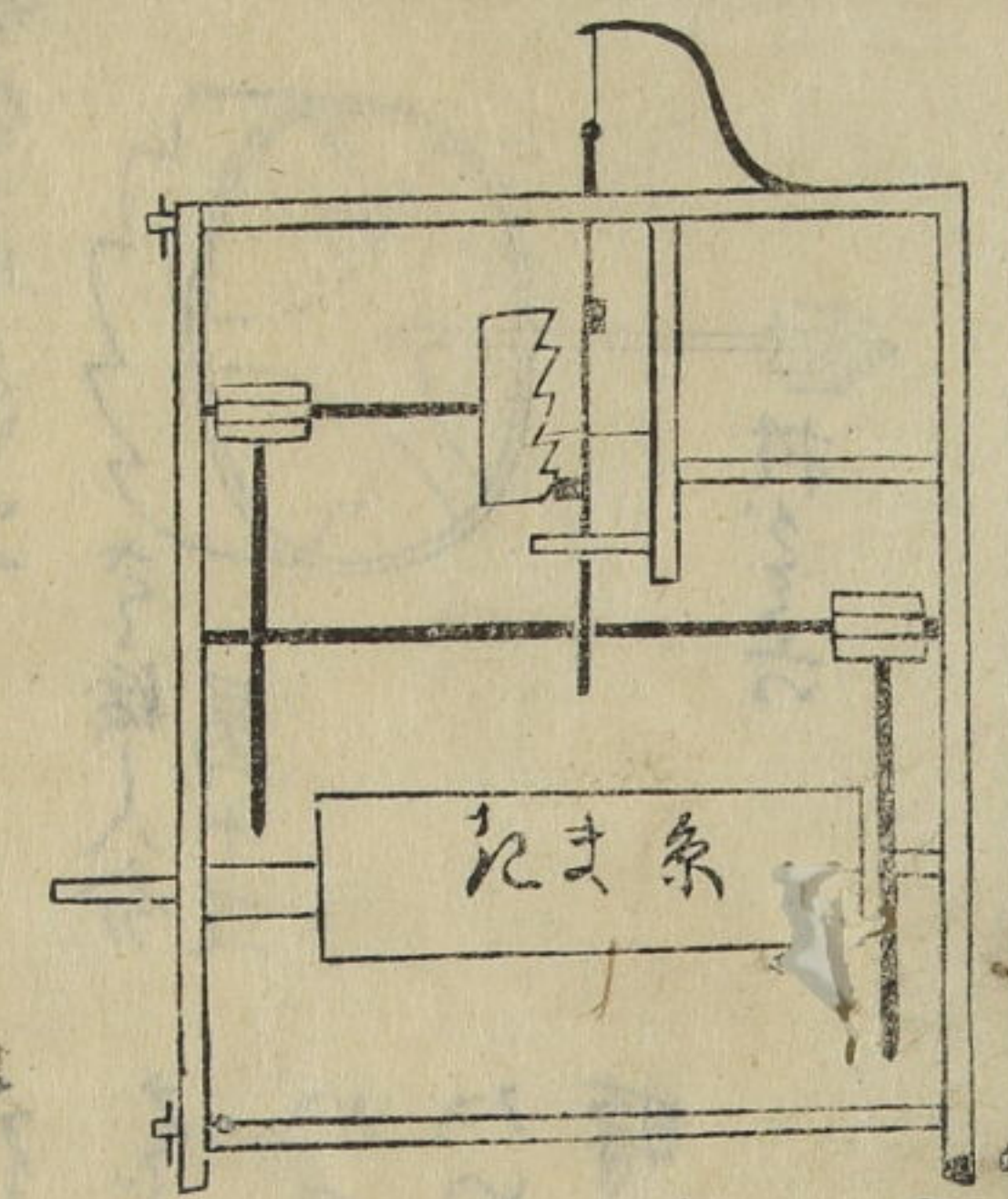
後の右より斜めなる様子



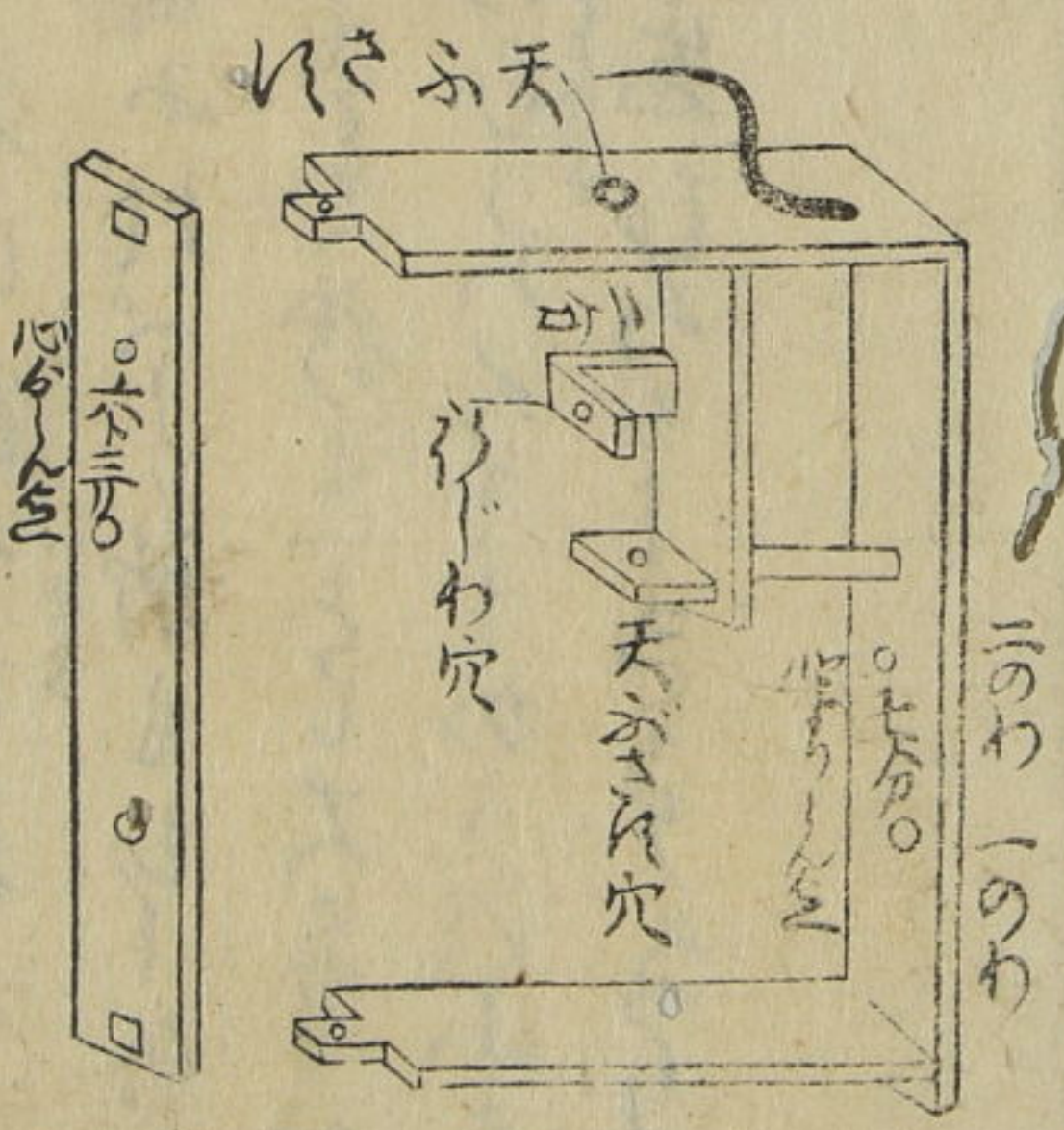
鍍百平目

おりのをよける時先ちりやひのねをさぐ
け穴をよけるをよけてゆるゆる

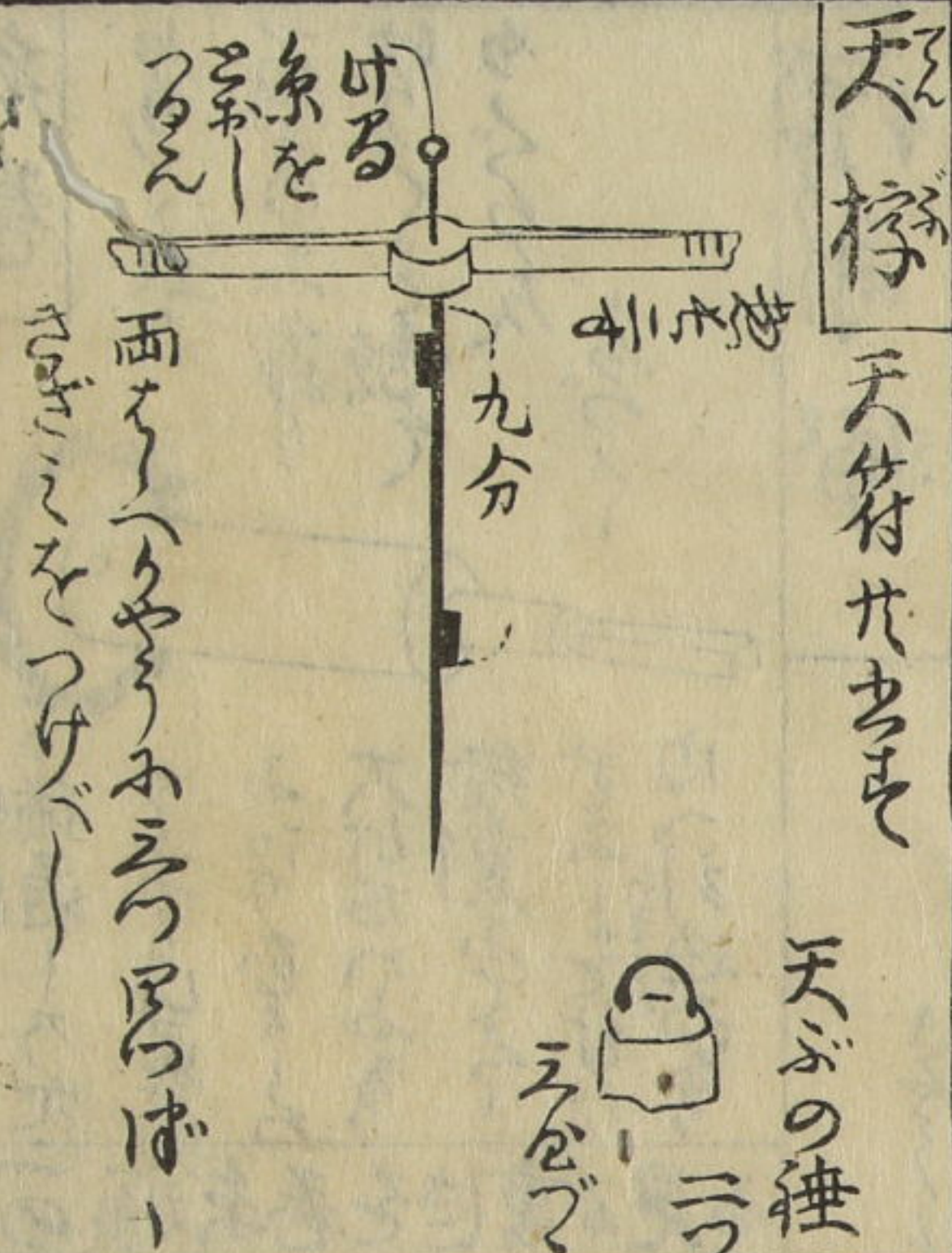
一の端は司端のしんは皆板乃其申ふや二の端
のしんはしんをそのしん板の板さるぬるなり



左の方の面みづる
右の方の面みづる



天地板
板厚
幅
厚



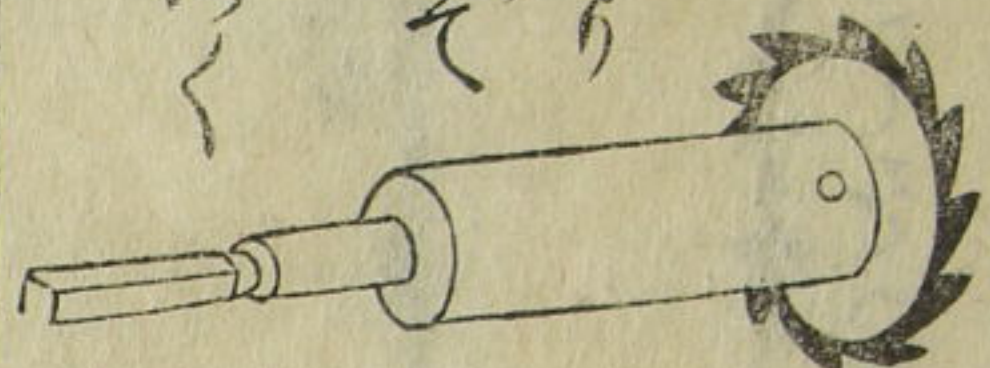
面をよける
糸をよける



け穴を付る
厚六厘
幅六厘

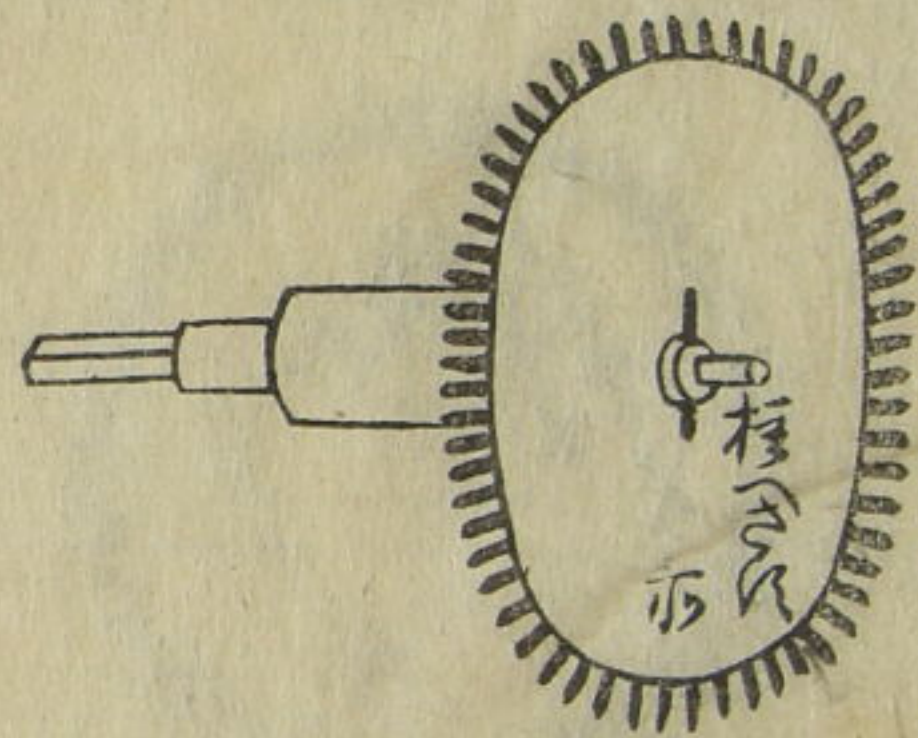
糸巻

ケリ車
るがのふあり
けりくと鳴そ
めぐるん



術通一乃穴
うもけし通り
おたりをうら
大けのわき
猪裏おてら
内へ引込あり

糸巻を巻る見



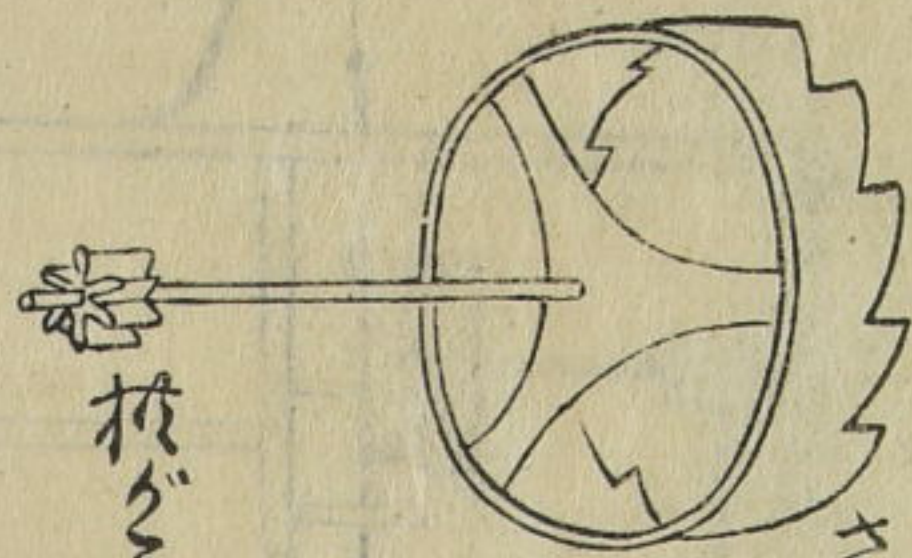
二乃端



推みえ六つ
楕円
厚五り
歯五

行司端

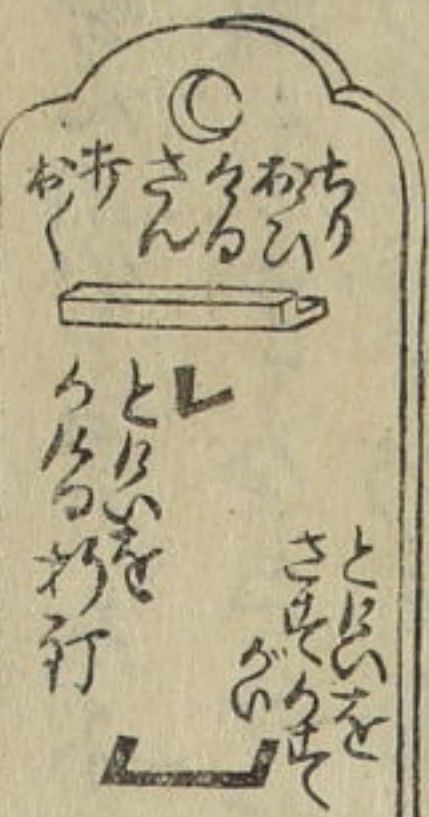
かき車ともい



さ後八分
歯十五

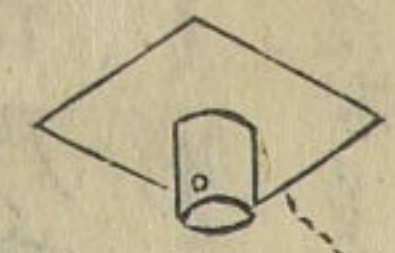
行司端小け歯をまわむらする
を精密おけ一節もあつて
ハ用をささげ務もともである時斗
いさりのむらする一かづいふる
時斗夜忘むらうきさるあり

櫛板



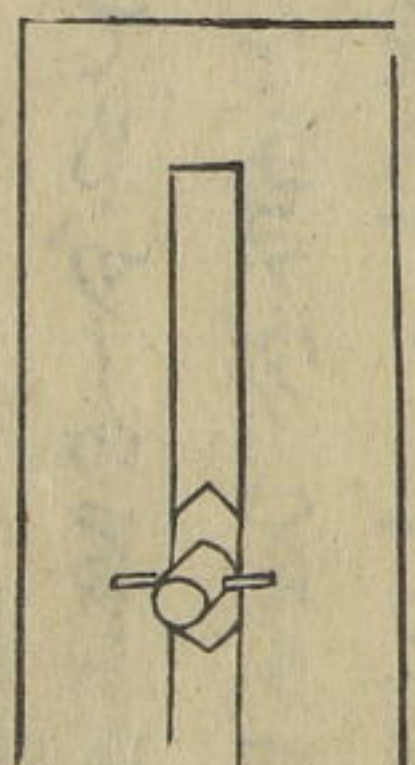
け方おりの二昼夜下る長さささるり昼夜百刻をり付る
さーの上下するまで
け方へさすをり付る

菱ひり裏とるる図



け両換穴あり
訂めて板へ
さるるあり

板の板



板の板
西へくごんご
菱の行乃そ
板さるるあり

天符乃用をさるる理

時計中一の要ハ行司端と天符とおありゆへ今
行司端只一つおありをけ大付と九めてゆへやふめぐる
乃天符を解さるる左のよう本天符のゆへやふめぐるあり

